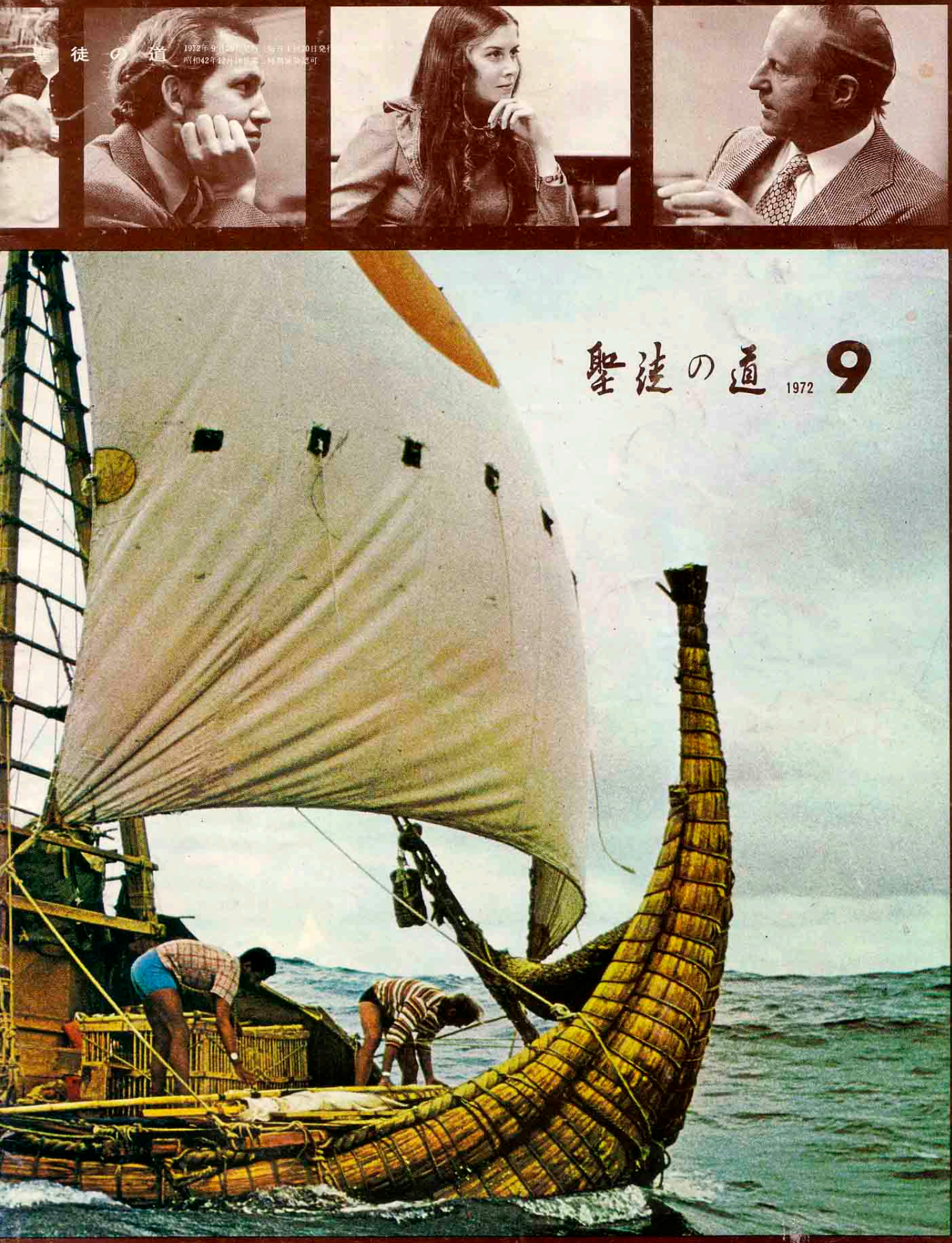
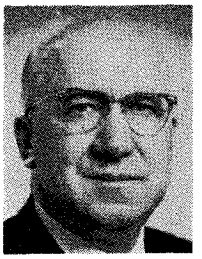

聖徒の道
1972年9月20日発行 毎月1回10日発行
昭和42年[illegible]
聖徒の道 1972 9

心　の　糧



七十人最高評議員会会員
ミルトン・R・ハンター

モルモン経が世に現わされて以来，この本が真実であることを実証する考古学的，科学的証拠が驚異的な割合で発見されて来た。しかし，科学的証拠の研究はそれ自体では証をもたらすものではない。ミルトン・R・ハンター長老は次のように言っている。

「どうしてそんなに多くの人びとが，モルモン経を認めようとしなかったのか不思議に思うかもしれない。それは恐らくモルモン経の起源と，長い間地中に秘められていて後に世に出，翻訳されたことについて，いわゆる奇蹟のようで信じがたい事柄があまりにも多いからであろう。

使徒パウロは，霊的な事柄は聖霊の働きを通してのみ人間に理解され受け入れられると説明している。

パウロは次のように明言している。『神の思いも，神の御霊以外には知るものはない。生れながらの人は，神の御霊の賜物を受け入れない。それは彼には愚かなものだからである。また，御霊によって判断されるべきであるから，彼はそれを理解することができない。』（Ｉコリント２：11，14）

このようにして聖霊の賜によらない人は，モルモン経と，主が準備と出現とに際してなしたもうた偉大にしてかつ驚嘆すべきみわざのすべてを，夢物語，虚構，不実と見なしている。これに反して，聖霊が人の心と霊にモルモン経の神性について証する時，霊的な精神を持つ人にはこの本の神聖なる真実性がわかるのであり，これがその人の全存在に極めて重要となる。そして，常に証せずにはいられなくなるのである。

私はモルモン経がまぎれもなく真実であることを，まことに証し申しあげる。」

――もくじ――

神権の祝福……ジョセフ・フィールデング・スミス… 385
ここから彼方へ行ける……マービン・Ｊ・アシュトン… 387
無条件の愛……マリオン・Ｄ・ハンクス… 390
神権者の責任……ハロルド・Ｂ・リー… 393
著名な探険家トール・ヘイエルダールとの会見記…… 396
聖句クイズ……ジョン・Ａ・トウベットテス… 401
質疑応答…… 402
すべてはよし……メアリー・プラット・パリッシュ… 405
優勝者……ロビサ・ハータド… 408
点を結びましょう…… 411
息子のアルマ……マーベル・ジョーンズ・ガボット… 412
ブリガム・ヤングと社会的責任……アーサー・Ｒ・バセット… 413
汝するなかれ……スターリング・Ｗ・シル… 419
我らが目を天に向けよ……ジョン・Ｈ・バンデンバーグ… 422
世を救う責任……デルバート・Ｌ・スティプレー… 426
ローカル・ニューズ…… 430

9月のこよみ

1日　1901年　ヒーバー・Ｊ・グラント大管長により日本の地にて伝道開始さる。
4日　1932年　タバナクル聖歌隊のラジオ放送始まる。（ＫＳＬ）
7日　1958年　デビド・Ｏ・マッケイ大管長により，ロンドン神殿献堂さる。
8日　1873年　第９代大管長デビド・Ｏ・マッケイ生まる。
11日　1955年　デビド・Ｏ・マッケイ大管長によりスイス神殿献堂さる。
13日　1898年　ロレンゾ・スノー，教会の第５代大管長として支持さる。
17日　1884年　ジョン・テイラー大管長によりローガン神殿献堂さる。
21日　1823年　天使モロナイ，示現でジョセフ・スミスに現わる。
22日　1827年　ジョセフ・スミス，クモラの丘で神聖な記録を受け取る。
23日　1945年　ジョージ・アルバート・スミス大管長によりアイダホフォールズ神殿献堂さる。

今月の表紙

今月の表紙：ノルウェーの探険家トール・ヘイエルダールは，最近行なった航海について末日聖徒の若人と語り合った。会談の内容は聖徒の道今月号の396ページに掲載されている。写真はヘイエルダール博士と教会の若人，建造中のラーⅠ世号，航海中のラーⅡ世号，そして食糧の上に腰をおろしているのはペットのモンキー君である。

聖徒の道
1972年９月20日発行
発行人　マービン・Ｓ・ハーディング
発行所　東京都港区南麻布５－８－10
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話（442）7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円
外国４ドル50セント

神　権　の　祝　福

第10代大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス

愛する神権者諸君，この神権者大会に出席し，人類を益するための神権の行使について一言述べることをうれしく思う。

この神権は主の福音を執行するものである。それは神御自身よりの権能の委任として我々に与えられてきたものであり，それ故に我々は何事であれ，我々自身と仲間を救い，天の王国に昇栄させるに必要なことができるのである。

主は初期の啓示の中で予言者ジョセフ・スミスに対して次のように言っておられる。

「もし汝善を行わんと欲し誠に終りまで変ることなく忠信ならば，神の王国に数わるべし。こは，神の賜のうち最大なるものなり。およそ，救いの賜に勝る賜はあらざればなり。」(教義と聖約6：13)

まことに我々が受けることのできる最大の賜である救いは，福音の律法に従順なるによってもたらされるのであり，福音は神権の権能によって執行される。故に神権は我々自身と天父の他の子らを祝福するべく与えられるのである。

福音がのべられるのは神権の力と権能とによる。人間の生産で，福音を受けるにまさる偉大な祝福があるだろうか。

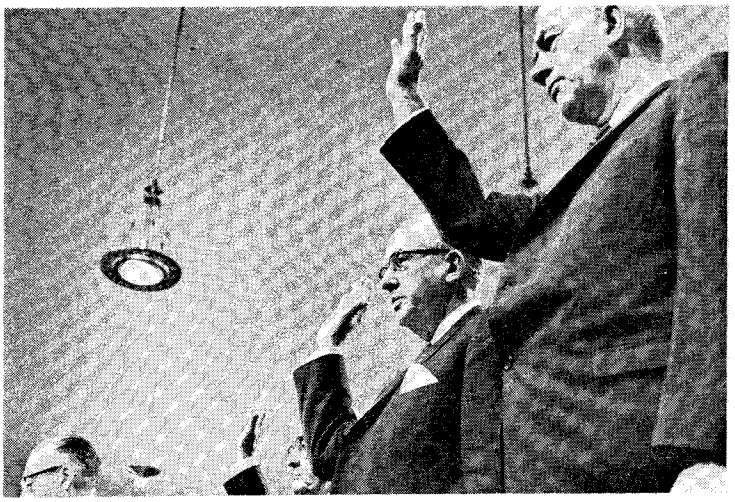
人が罪の赦しのためのバプテスマを受けるのも，みたまの聖なる力の賜を得るのも神権の力によるのである。

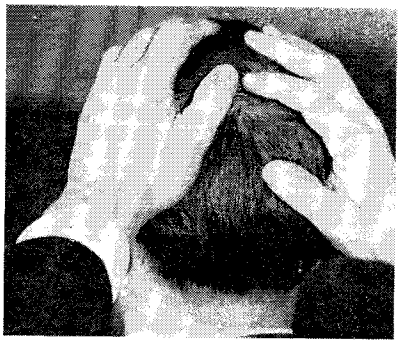
我々は聖約によりメルケゼデク神権を授けられている。我々には主の召しを賛美し，「神の口から出る言によって」(マタイ4：4参照)生きることを誓うものである。主は約束したもう，我々がこれらのことをなせば天の王国の最高の位に昇栄できることを。

現世と永遠の結婚は「神権の命ずるところ」であり，夫婦が誓約に忠信ならば天の王国に王冠が約束されているのである。

この聖なる神権を保有する兄弟たちは，信仰ある家庭で病める者に祝福を与える権能を持っている。故に信仰ある聖徒は病を癒され，「死の命を受けざる者」は強くされるのである。

それは教会事業の範囲のすべての地





に及ぶ。主の祝福は主の委任を受け，真に主の僕であり，心から主に仕え戒めを守る聖なる神権保持者の職務を通じて，聖徒たちの頭上と全世界にもたらされる。

今私はすべての兄弟たちに，常に教会の命に心を傾け，まず自分自身のために，さらに他の人々を祝福するべく与えられたこの権能を行使することを願うものである。

皆は召しにこたえて国の内外を問わず福音をのべなければならない。夫は妻や子供たちを祝福しなければならない。

我々は皆，神権の祝福が授けられた主の宮居に入るにふさわしいように備えなければならない。

愛する兄弟たちよ，神権を保有していることを決して軽々しく考えてはならない。我々は主の力と権能とを分ち合っているのであり，それは今日において天が開けたと共に与えられたものであり，かつて人間が初めて地上におかれた時と同様にすべての祝福が再びもたらされ得るのである。

私は我々が務めをよく学び，神権を高く保持し，使命を拡げ，我々自身のために，および我々が世界のすみずみまでももたらす救いの福音を心に留めるすべての人々のために，神権を行使し得るように祈るものである。

私は，神権を授けられている人，按手聖任されている人，職に召された人，忠実であったすべての人々に祝福を与えたい。

我々はこの神権を我々自身のためだけではなく，地の上にあまねく散らばり，悔改めて福音を進んで受け入れる人々を益するために授けられているという大いなる責任を負うている。

我々はこの救いの福音を全世界にもたらすであろう。それが我々の責任なのである。

良き兄弟たちよ，私は感謝の念と共に，心から喜んで諸君と相たずさえて悔い改めんとしているすべての人にくまなく救いをもたらす業に全力を捧げんとするものである。

主イエス・キリストのみ名によりて祈りたてまつる。アーメン。

ここから彼方へ行ける

十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

今日この神権者大会に出席し，おびただしい聴衆を眺めていると，私の心の中にある土人の青年のことを話したいという気持ちが湧き上ってくる。大都会の中で彼は惑い混乱していた。彼は生きる道を失ってしまっていたのである。絶望のあまり彼は路上で人をとめて尋ねた。「一体どうしたら私はここからかくかくの目的地へ行き着けるだろうか。」魔天楼，混雑した交通機関，混乱した街路，うねうねと流れる川，高速道路，橋，トンネルなどのことを思い巡らせ考えた後その人は答えた。「あなたはここから彼方へ行くことはできないよ」と。

私は特に人生の現在地点にいる若者たちを眺めていると，しばしばこの忠告のことを思い出す。ある者は道に忠い，惑い，混乱し，おびえ，病み，危険にさらされ，勇気を失っている。こういった困難に直面し，「どうしたらかつていた所に帰り着けるだろうか」「いったいどうすれば行きたいと思う所へ行けるのだろうか」と尋ね，「君達は今いる所から彼方へは行き着くことはできないのだ」との答えしか得られないとは何という悲劇であろうか。

悪魔の手下共は戻る道はないと教える。楽しくやろうよ，皆そうやっているじゃないか，仲間になっていようよ，道をふみ外している方がもっと楽しい。

悪魔は主の道に立ちはだかり，罪へ導こうとする敵である。

「それで善いものはみな神から出るし，悪いものは悪魔から出る。悪魔は神の敵であってたえず神に背き，人を誘惑してこれに罪を犯させいつも悪い事をさせようとする」（モロナイ７：12）

道に迷ったこの青年が大都会で得た経験に比べ，彼かまたは他の人が「そうです，あなたもここから彼方へ行けるのです。私に従って来なさい」と言うだれかを見つけ出せるとは何と幸福なことであろう。

私はへり下って，しかし持てる力のすべてをこめて，我々の「迷った」若者たち，世界中の若い男女に，あなた方は今いる所から立ち戻ることができるのだと宣言する。

神権の一翼として教会の偉大な社会奉仕事業プログラムは，若い人たちに社会的，心情的な問題について助けの手を差しのべる。スミス大管長が我々に今夜確言されたように，神権の名誉にかけて，我々は彼らが喜びと安らぎに戻る道を見付けるのを助けることができるのである。

若者たちよ，あざむかれてはいけない。神はあなたがたを愛したまい，心にかけたもう。神は安らぎと友情と目的のある主の道に戻るのを望んでおられる。我々は導く者として，たとえどこにいようとも神が愛したもう若者たちと有効に通じ合っている必要がある。我々はこの道に向って我々の時間と才能とを捧げる必要がある。

「しかし善を行なうことと，通じ合っていることとを忘れてはいけない。神はこのようないけにえを喜ばれるからである」（欽定訳ヘブル13：16）

私はこれから後確固とした幸せなそして豊かな人生の道を我々の周囲の人々に分ち合えるよう神に祈りたてまつる。

私はあなた方にこの地から彼方へ行き着けると証する友人たちの例を２，３手短かにお話したい。

私の友人の１人ロジャー・ロックは今ユタ州立刑務所に収容されている。（私はほんの２，３日前に彼に逢い，彼とウォードン・J・ターナー氏の名前と考えを出す許可を得ている）

若いアロン神権者諸君，私がその刑務所を訪れた時のことを覚えておいて下されば幸いである。私はある点で入獄者と同じ苦労をもっている。すなわち，そこへ入るのは易しいが，出ることは困難なのである。その困難は私に話したいという囚人に呼び止められて生じた。私が最後に訪れた時１人の青年が私を呼び止め，私たちは15分程話し合った。――時間は惜しもうとはしなかったが――私が去ろうとした時，彼は言った「私に話して下さって有難う」と，私はこのことを忘れることができない。その夜家へ帰る途中私はその15分間を思い起こした。私は24か25の言葉を話したろうか。しかし私はその会話がもっともっと私たちが持たなければならない種類の話し合いであったと信じている。しかしそれは他の問題である。さあ，ロジャーのことに戻ろ

う。彼は言った。

「私は今ここにいることについて家のだれも責めようとは思いません。しかし，私が家族的なつながりを少しも持っていなかったのは事実です。この社会奉仕プログラムを通じて与えられた両親がなかったら，私は何度もあきらめてしまっていたことでしょう。これらの人々はまるで私が本当の息子であるかのように愛してくれました。こんなことは私が小さかった子供の時にすらなかったことです。今彼らの助けともちろんあの力で私は立ち直ることができると信じています。私は刑務所に入ったことを誇りに思ってはいませんが，そこにいた時の最近の経験を誇らしく思います。我々は他の人を責めがちです。我々は両親が自分たちを愛してくれなかったからといって責めようとは思いません。彼らが我々を愛してはいたが，多分彼らは我々を育て上げる時にふさわしい導きと指図とを受けていなかったのだと知っているからです。」

おそらく我々の多くは，ロジャーが自分は決して立ち直ることができないと信じていたのももっともだと思うかもしれない。彼はあまりにも遠いまわり道をした。しかしそれを信じてはいなかった。そればかりでなく，彼は今彼を助けている人々に感謝し，彼の人生を動き出させている指示を心からありがたく思っている。

刑務所にいる教会員は小数であり，仲間からしばしばかんばしくない言語で区別される。しかしこのすばらしい青年——彼の勇気に祝福あれ——は，「神の分隊」の一員としてユタ州刑務所にいることを恥じてはいない。彼はついに今いるところから立ち直る決心をしたようだ。

2，3週前私は伝道に出ている1人の長老を訪れた。彼に逢って話している間に私は尋ねた。「あなたのお父さんは教会員ですか」

「いいえ」彼は答えた。

「お母さんは教会員ですか」

「ほんの少し」と彼はほほ笑みながら答えた。

「あなたのお父さんはあなたが宣教師として召されるのを望みましたか」

「いいえ」

「あなたのお母さんはどうですか」

「母は私が伝道に出ようと出まいと，少しも気にかけませんでした」

「ではだれがあなたが伝道に出ることを決意するのに最も影響を与えたのですか」

彼はためらわずに答えた。

「私です。私は長い間伝道に出たいと願っていましたし，きっと成功すると思っていました。」

私はこの青年の眼を見つめて言った。

「私が聞きそしてあなたの意気から感ずるところによれば，あなたは必ず成功するでしょう。」1カ月前には「親父もかまってはくれないし，お袋も気にかけてはくれない。どうしてこのおれがかまわなけりゃならないのか」と言ったかも知れないこの青年こそは，予任されていた人間なのである。このすばらしい宣教師は，勇気を持って進むことの大切さと，幸福へ導く道をたえず歩む勇気とを持っている。彼はかつて一度は道に迷ったが，今は完全に行くべき道と方法とを知っていると認めた。

何カ月か前，少年鑑別所を訪れた時私は宗教奉仕の直前にお互いに面会し合っている3人の少女たちに目を止めた。彼らは10才から12才ぐらいに見えた。私は後になって彼らがある問題の解決を見届けるために2，3日間収容されていたことを知った。私が他の連中とまじって待っている間，彼女たちは真剣に会話に熱中していた。「一体何を話しているのだろう。」私は不思議に思い，好奇心にまかせて，彼女たちの会話をほんの少しでも聞けたらと

近寄った。私は彼女たちの１人が友達に出した次の質問に心を動かされた。「だれかが今日来て，私を家に連れて行きたいと言わないかしら。私を必要としている人と一緒に住めたらすてきでしょうね」

10才のだれからも必要とされていない１人の少女がいたのだ。彼女の両親は，彼女が収容される時，もうこれで彼女を育てることから解放されたと喜んでいるような印象をここの責任者たちに与えていた。彼女が後になって，教会の認可を受けた社会奉仕員によって新らしい家に迎えられ，養われ，愛され，両親を得，導きを与えられることを知ったら何と喜ぶことであろうか。彼女を愛する養父母は，今温かい家族一体の結合の中で，彼女が自身の道を見出すのを助けている。

大勢の麻薬常用者が今日失われた道を取り戻そうと必死の試みをしている。その道は困難であり，試練は恐ろしい。私は多数がそれをやり遂げようと努力していることを喜んでお知らせしたい。この問題に関心を持ち理解を示しておられる友人諸君，奉仕会員，神権者の方々に感謝の意を表するものである。非常にしばしば，私たちの冷淡さや気ぜわしさや忍耐の欠除が「君たちは救いがない。ここから立ち戻ることはできない。道からあまりにも遠くはなれすぎている」と言わせている。

麻薬に幾月もの間溺れひたってしまったある若い女性を訪れた時，３時間以上も熱心に話し合った後彼女が見せた立ち直りのきざしはわずかに「私を追い出さなくてありがとう」という言葉だけであった。２回訪問した後彼女は尋ねた。「私は良い教員になれると思いますか」「なれますとも」「ありがとう，やってみます。私は教員の資格を得るのにあと３つセミナーを受ければいいのです。」この少女は立ち直りつつある。だれかがここから彼方へ行くことが彼女にはできると信じ，確信を持たせたのである。彼女が今辿っている道は，彼女を家庭へ戻らせるであろう。

今日，老若を問わず我々神権保持者として，これらたまたま道に迷った人々を力強く探し出し導くというチャレンジをさせてもらいたい。

彼らを我々の模範と愛と信念で導こう。彼らは我々の助けを求め指図を待ち望んでいる。彼らは我々の愛を必要としている。神権者諸君，神権を敬い，へり下って道に迷った人たちを助けるべく自身をしっかりと築こうではないか。マタイ23：37に見出される力強い事実を思い起こしてほしい……「ちょうど，めんどりが翼の下にそのひなを集めるように，わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに，おまえたちは応じようとしなかった」……

あなたがたの許しを得て，私はこの聖句をもう一度繰り返し，二語の警句を付け加えたい。……「ちょうどめんどりが翼の下にひなを集めるようにわたしはおまえの子らを集めようとしたことであろう。しかしおまえたちは私を助けようとしなかった」

我々のうち幾人が実際に主がその群を集めたまわんとするのを助けているであろうか。我々各人が神権の責任についてどのように真剣に考えているであろうか。我々のうち幾人が，高等評議員として，専門の奉仕者として，生れつきの手腕を持った助け手として我々を必要としている仲間を助けているであろうか。我々の主が，「もしおまえたちが私を愛するなら，私の小羊を養いなさい」（ヨハネ 21：16参照）といわれた時，主は囲いの中で安全にいる小羊たちのことを言われたのではない。私は今夜明らかに我々全てに告げる。主は，迷った小羊たちを見付け出し，彼らを連れ戻すのに我々の手助けを必要としておられる。

畑は早や白くして刈り入れを待っている。迷った者たちは戻るすべを知りたいと望んでいる。彼らは今いる所から彼方へ行くことができることを示してほしいと望んでいる。あきらめてはいけない。疲れてはいけない。へこたれてはいけない。「わたしたちは善を行うことに，うみ疲れてはならない。たゆまないでいると，時が来ればかり取るようになる」（ガラテヤ６：９）

主は「わたしについてきなさい」と招きの中に模範を備えたもうた。我々の救い主キリストが「わたしを見るものは父を見るのである」と言われたのは「わたしに聞くものは父に聞くのである」といわれたのよりもむしろすばらしいと私は思う。主の模範は証であり，生涯が説教であり，道であった。

私は今神が生きていまし，これが神のみ業であり，イエス・キリストが我らの救い主であり，贖い主であることを証する。私はまた主のみ心を行ない戒めを守ることにより，ヨハネの第３の手紙にある偉大な喜び，すなわち，「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に，大きい喜びはない」（Ⅲ ヨハネ4）を分つことができると証し，これらすべてをイエス・キリストのみ名によってお話し申しあげる。アーメン。

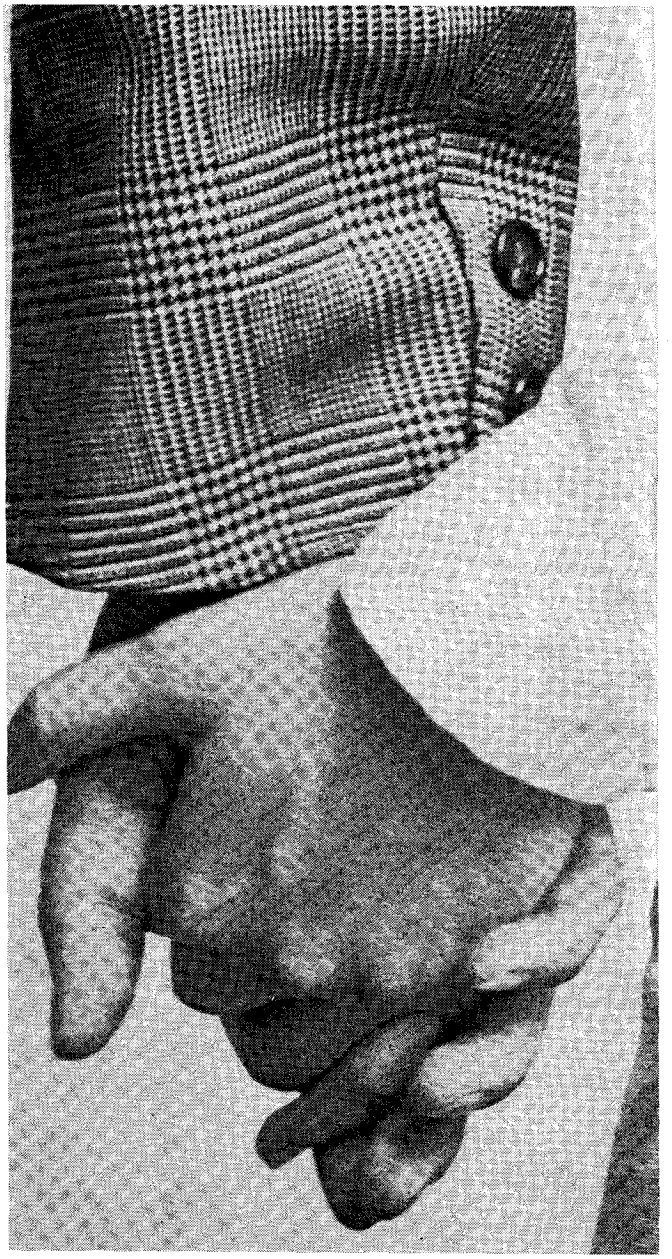
無条件の愛

十二使徒評議員会補助

マリオン・D・ハンクス

神は創世以来，群れの中に安らかにいるもの，迷い出たもの，いまだ群れには加わったことのないものであるかを問わず，御自身の子供たちに大いなる関心を寄せてこられた。

今宵，私たちは，主として群れの中にいるもの，もしくは群れの中にいるはずであるのに私たちが望むほどには群れの中に十分入っていない人々のことについて話している。一度群れに加わりながらも後に遠く離れてしまった人々について予言者アルマが記している箇所を読み返したい。それは予言者アルマが，モーサヤ王の3人の息子，自分の2人の息子および2人の改宗者と共に大きな誤ちに陥ってしまった述べられているゾーラム人のところへ教えに出かけた時のことである。そこには次のように記されている。「しかしながらゾーラム人は神の誡命と法令とを守ることをせず，また，誘惑に負けないようにたえず毎日神に祈り願えという教会の規則に従わず，まことに多くの場合主の道を曲げたので，すでに大きな過ちに陥っていた。それでアルマとその兄弟たちはゾーラム人に神の道を伝えようとして一しょに出かけたのである。」（アルマ書31：9—11）



このような事態が起きた時，アルマは，今宵私たちが，青少年に仕える偉大な僕たちの語る言葉を耳にするにつれて心の中に生じてきた次のような祈りに似た言葉を主に捧げたのであった。「主よ，私たちが再びこの民を感化して，キリストによってかれらを神の道に入らせる働きを成功させたまえ。主よ，この人々の身も霊も貫く，民の中には私たちの同胞が多く居る故に，〔アルマは，同胞が多くいると言った時，現在の私たちの兄弟の妻子，また未来の兄弟の妻子のことを考えていたのではないだろうか。〕この同胞を再び神の道に入らせることができるよう能力と知恵とを私たちに与えたまえ。」（アルマ書31：34—35）

ジョー・クリスチャンセン兄弟が最近私に教会の歴史からある文の抜粋に注目するよう勧めてくれたが，その一部を皆さんと共に見てみたいと思う。「教会歴史記録」（5巻320—321ページ）に「タイムズ・アンド・シーズンズ」から引用された「若い青年男女の

扶助協会の起源に関する寸描」と題する一文が載っている。そしてこれは，注釈者が書いているように扶助協会よりも青少年に関するものであることに気づかれることだろう。しかし，それはともかく，これがその見出しなのである。

「1843年1月下旬，数多くの若者たちがヒーバー・C・キンボール長老宅に集った。（こう予言者ジョセフ・スミスは記している）長老は，この若者たちに彼らがさらされている数々の誘惑について警告し，特に若者たちともう一度ビリングズ長老の家で会おうと約束した。さらに，その翌週もう1つの集会がファー兄弟の教室で開かれ，その部屋は若者たちであふれんばかりに満たされた。キンボール長老は，数々の説教をし，若者たちに聖典を学び自分の内にもっている希望に対して理由づけができるように努め，現在の教師や指導者が舞台を退いた時いつでも代わって舞台に立てるように準備するよう，また良い友人と交わり，清く，世の汚れに染まらないよう努めよと勧告した。」（教義と聖約59：9参照）

次の集会は，予言者の家で開かれたと予言者ジョセフ・スミスは記している。天候に恵まれなかったにもかかわらず多くの若者があふれんばかりに集った。予言者によると，「キンボール長老はいつものように，説教をし，若い情熱に注意するよう聴衆に警告し，両親の忠告に従順であって，よく注意を払うようにすすめた。」

それから，予言者は次のような言葉を述べているが，私はその言葉に感動を覚えた。この言葉は，青少年と共に働くあなたがたをも感動させることだろう。「私は若者の前に立つとき地上の王候，貴族の前に立つときに感じる以上の当惑を覚える。というのは王候貴族に対しては，彼らの犯した罪悪を知っていて，どのように話したらよいか精確に知っているが，若い友たちは，いかなる罪をも犯しておらず，どのように話せばよいかほとんどわからないからである。彼らに対し私は，貧しい人々を救済するために1つの協会を組織するように勧めた。そして1人の貧しい足の悪い英国人の兄弟の世話をするように頼んだ。この兄弟は1軒の家を建てて聖徒たちの間で家庭を持ちたいと望んでいた。このため彼は材料を若干集めたが，それを使うことができず，助けを求めていた。この目的のために資金を集める委員会を選出し，天候の許す限りできるだけ早く，この慈善行為を実行するように勧めた。私は，終生彼らの行ないを導き，彼らを光栄に輝く永遠に対して備えさせるよう考えて，このような勧告を与えたのである。」

おわかりのことと思うが，今日若者たちに手を差し伸べようとする私たちの努力はこれが始めてなのではない。若者たちは今もほとんど同じである。同じような必要にかられて動き，確かに昔の人を導いたのと同じみたまによって導かれている。私は，若者たちの前に立つとき同じ感情を抱いてきた。

そのため，予言者のこの言葉が，私を感動させたのである。長い間一教師として，私は生徒を教えるとき，その未来について深く考えた。私は今まで生きてきた結果，最も好感を寄せている希望が実現するのを目にしてきたしあるいは実現の端緒につくのを見て来た。また，残念ながら，中には私の懸念していたことも実現している。

事実，若者たちは，偉大な注目すべき世代である。しかしながら，多数の人々同様私は彼らのすべてが現に直面している大きな問題にも充分気づいている。しかもこうした若者の多くが必死になって助けを求めている。

私たちは，直接会ったり，電話したり，面接や手紙によって若者たちと接触しているが，あなたが私たちのこういった日々を見てみることは興味深いことだろう。私は，数日前大きな空港に着いて飛行機から降りたら，あなたがた何人かの指導者の出迎えを受けた。

その時，そこに美しい大学生の年頃の女性が待っていた。以前彼女は，両親や他の人の願いをきかず家を飛び出して，ヒッチハイクをしてロックフェスティバルに出かけたのであった。彼女はある男性と2人でヒッチハイクしながら帰る途中，警察に見つけられ，麻薬所有のかどで逮捕された。そして裁判の結果徴役5年の判決を受けた。その後取り乱した母親は，監督に知らせ，監督は当地の兄弟たちに知らせたので，この兄弟たちの仲介を得て彼女は仮釈放の身となった。しかし，記録は残され，彼女はきわめて不安な毎日を送っている。そして，今ある決心を迫られている。

私の机の上には苦悶の末助けを叫び求めている一少女から寄せられた1通の手紙が置かれているが，これは数多くの同様な手紙の一例にすぎない。この手紙には，「どうか助けて下さい」という言葉が3回記されている。この数時間のうちに取り乱した青年から2回も電話があった。この青年は教会の職について疑問を抱いている友人のために心をくだき導きを求めていたのである。この友は，教会の職が教会における彼の立場をつまらないものにしたり，支持しがたいものにするのではないかと考えそれを受け入れがたいと感じていたのである。

私が今手にしているのは失意にある信仰深い父親から2日前に受け取った手紙である。私があげてきた他の少年たちとほぼ同じ年令の彼の息子は，愛情深い父親や健全な素晴らしい家族の努力のかいもなく自分の生命を絶ったのである。両親がどれほど骨を折ったかを読む時間がないのが残念である。この家族は宣教師一家で献身的でいつも一緒にいる家族であった。しかし，この少年は自分を価値のないもの，自分は失格者で，その犯した誤ちは彼を資格のないものとしたと思い込んで自分の生命を絶った。彼の父親は遺書の写しを私のもとへ送り，彼の手紙と遺書を私の判断と感情の命ずるままに活用して欲しいと申し出ている。

私たちには何ができるであろうか？どのようにしたら時代の挑戦に直面しているこの大いなる若者たちを助ける

ことができるだろうか。私たちは彼らが必要とすること，問題そして彼らに与えるべきものを思慮深く吟味しなければならないと，私は確信している。それだけでなく，私たちがどのようにそれを与えるか，また彼らの目に映るありのままの自分の姿について思慮深く検討しなければならないと確信している。

私は自分の経験をもう一度振返って考え，手短かに１つないし２つの例を申し上げたいと思う。その際私が，長い間座右の銘として来た「笑わず，泣かず，嫌わないで，理解しなさい」という言葉に沿って申し上げたい。

彼らの問題とは何か？次の基本的な見解は私が若者と接触して得た経験と彼らの口と生活から得たものである。これは４～５つの必要に要約される。

第１に彼らは信仰を必要としている。彼らは信じる必要がある。教義，誡め，福音の原則を知る必要がある。理解力と確信を増すことが必要である。礼拝し，祈る必要がある。しかし彼らは，こうしたことがすべてはなはだしく疑問視され，疑うことが奨励される時代に生きているのである。

第２に若者たちは，ありのまま受け入れられることを必要としている。彼らはこの世界で最も大切な社会単位である家族を必要としている。また良い家族に恵まれていても，家庭外の他人，隣人，友人，監督，兄弟，人類全体の助けを必要としている。

第３に若者たちは，積極的に打ち込むこと，参加し，奉仕し，献身することを必要としている。

第４に，若者たちは，誤ちを犯すことがあっても，自分たちが大切な存在であることを学ばねばならない。つまり自分が価値のある尊い有用な存在であって，無条件に愛される存在であることを学ばなければならない。

私は素晴らしい家庭の夕べの終りに家族と共にひざまずいた。それは私たちが愛する娘が神殿で結婚する前の夜のことであった。この夜，私たちは笑ったり，泣いたり，あるいは思い出を語り合ったりした後，彼女にお祈りを頼んだ。この時のことを話しても彼女は許してくれることと思う。私は彼女の祈りと涙，喜び，そして美しいその時の場面を逐一思い起こすことはできない。しかし，唯一つの気持を私は憶えている。彼女は無条件の愛を受けたことを神に感謝した。この人生には，私たちが歓喜し，ちょっとした成功感にひたれる機会はあまり多くはないが，その夜私は素晴らしい気持を味わうことができ，彼女が自分で述べたことを本当に信じ理解していることを神に感謝したのであった。

愛する兄弟たちよ，私たちは，ひげや首飾り，習慣，好奇な考えなどによって私たちの愛に条件をつけることはできない。標準はなければならないしまたその標準を実施しなければならないが，私たちの愛は無条件でなければならない。私は自分の生命を絶った少年の残した手紙の一部を紹介したい。「私にはいかなる希望もありません。ただ今は死んでしまった夢だけがあります。私は他の人と心から満足できる打ちとけたつき合いが一度もできませんでした。私は将来や他の多くのことに恐れをいだきました。劣等感を感じました。私には物事を成し遂げる意志が殆んどなく，また忍耐や価値意識も殆んどありません。さようなら。あなたの言葉に耳を傾けるべきでした。でも傾けませんでした。私は昨年の夏からＬＳＤを使用し始めました。それは煉獄の苦しみです。」何という悲しい話だろうか。

私たちは彼らが必要としていることを理解する必要がある。彼らは福音を学ぶ必要があり，受け入れられる必要がある。そして愛されることを必要としている。兄弟たちよ，彼らは私が挙げる最後の５番目の項目，すなわち本当に思いやりのある立派な男性，良い両親，良い人々の模範を必要としている。

私は数週間前にいとこの葬式に出席する機会があったが，そこで感動したことをお話ししたい。恐らくこのメッセージは，もしその気になれば，この大いなる世代の若者たちのために立派な奉仕ができる立場にある人々に分ち合うべきメッセージであろう。

いとこの副監督をつとめ，今監督となっている兄弟が，彼のことを次のように語った。「すべての少年が生涯の中にこのアイバン・フレームのような人を知るとどんなによいだろうか。

神の祝福があって，私たちが若者たちを愛し，受け入れ，彼らが必要とするものを与えて，彼らが望むような人物となり，与えたいものを与えられる物になれるように祈る。

イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

神　権　者　の　責　任

大管長
ハロルド・B・リー

私たちは先週1日半，「全教会員が相互に啓発し合うため，教会は各会員すべてを必要としている」というテーマのもとに，十二使徒地区代表とともに過ごした。

私ちは幾つかの統計をまとめ，図表を作成した。この図表は今後十二使徒地区代表が各地の地区集会に携え，そこで今不活発な状態にある会員に手をさし伸べることがいかに大切であるか銘記させることだろう。

私は，ここで語っている事柄の重要性を銘記していただくため，図表からある数字をとり上げたいと思う。図表によると，現在教会のメルケゼデク神権者数は354,000人で，その大半が父親である。今仮りに月1回の聖餐会と神権会の出席を基準にすると，187,000人が活発であるということになる。換言すれば，従来この程度で活発とみなされていたのである。21才以上のアロン神権者の数は184,000人，同じくその大半が父親である。しかし，注意していただきたいのは，そのうち17,000人だけが活発であるという事実である。その上未聖任の成人会員が48,000人，非教会員である夫が117,480人でほとんどが父親である。したがって，今仮りに未聖任会員および非教会員である夫の数を加え，この面における私たちのチャレンジを描き出してみるとほぼ70万人の成人男子のうち50万人が不活発ということになる。しかも，その多くは父親である。さて，兄弟。私たちは，これらの兄弟たちを何らかの形で活発にするように，効果的な活動を行なうよう提案するつもりである。

ある伝道部長が，東部諸州へ帰ることになっていた宣教師たちとホールで集会をもった。このホールの真中には天井を支える数本の柱が立っていた。

伝道部長は1人の宣教師に向かって言った。「立ってあの柱を押し動かしてみなさい。」

「さあ，私にはできません」とその宣教師は答えた 。

「どうしてですか。」

「あの天井の重みが柱にかかっているからです。」

その時伝道部長は「あの重みが取り去られたら，あなたはあの柱を押し動かせますか」と尋ねた。

「確かに，できると思います」と宣教師は答えた。

それから伝道部長は次のように言った。「さて兄弟たちよ。あなたがたと私はちょうどあの柱の中の一本のようなものである。私たちがこの教会において責任というひとつの重みをもっている限り，いかなる悪も私たちを押し動かすことはできない。しかし，重みが取り去られるや否や，私たちの大部分は，私たちを引き倒す力の容易な的となる。」

私たちはすべての神権者と父親の上に責任という重みを置きたいと思う。私たちが何らかの方策を講じなければ今後神殿で共に結び固められる機会をもたず，従って来世においてともに家族関係にあずかることのできない教会の会員を何百何千と数えることになるということを覚えておかなければならない。

活動は霊性の中核であることを覚えなさい。

私たちは次のようなプログラムを取り入れることを望んでいる。

監督はホーム・ティーチャーや定員会指導者に指示して，不活発会員名簿を提出させ，同時にこのような会員に対してどのように近づき彼らの心をとらえるかということに関する提案も提出させる。次いで同様にして監督がこれらの名前をステーキ部長に提出する。このようにして，数よりも個人に焦点を置き，一定期間継続的な努力と評価を行なう。そしてこの期間中に私たちはどの程度までこれらの会員たちに対して最善を尽くして近づき，彼らが他の人々に奉仕する機会にあずかれるよう助けることができるか，私たちの愛と創意性をテストするのである。

これまで兄弟たちに話していただいたのは，この重要な主題にあなたがたの注意を向けていただくためであった。すべての兄弟たちが，この点に関し様々な面に触れてこられた。私たちの教会で各種の職業に携っている数多くの会員は，「伝道に出るように召される代りに，なぜ自分の才能や職業技術を主のみ業に役立てることができる所で業に従事できないものか」と尋ねてきた。

これは1つのプログラムであり，今後このプログラムについてさらに多く

のことを耳にすることだろう。これは医者，看護婦，農業従事者に対する召しであり，正規の宣教師として，援助が必要とされる時にはいつでも一般会員の水準向上に資するため，ちょうど伝道宣教師のように自費で仕事に従事するのである。今や，私たちはこうした動きの中に，ある力の偉大な高揚と偉大な波を見ることができる。これは自分で奉仕できる分野で働く機会を得られるように努める数多くの人々からもたらされようとしている。これらの人々は，今ふさわしくない状態にあるいささか不活発気味な全会員に近づき，彼らになすべきことを与えるのである。

あなたの想像力を働かせなさい。教会はある働きのために人を必要としているという気持を抱いて，すべての人々に何らかの責任を与えなさい。

私は，以前話したと思うが，今宵ここでもう一度申し上げたい。

その話というのは，アダム・S・ベニオン長老がユタ州立刑務所で経験したことである。これまで私たちの何人かが刑務所を訪れたが，この長老はその誰よりも大胆に振舞い囚人と話合ったのである。「皆さん，私は皆さんに尋ねたい。これまでの生涯にどういうことがあって，この州立刑務所に入れられるはめになったのですか。」

冷たい雰囲気が柔らいでから，囚人たちは1つの返答をした。「自分たちに何が起ころうともだれ1人関心をもってくれないとある時感じたからです」

あなたがたと私は，比較的安らかな気持で今宵ここに座っている。たとえ私たちに何が起ころうとだれ一人関心をもってくれないと感じたとしても，主は私たちのうちのだれをも助けて下さるのである。不活発な父親，母親，子供すなわちだれ1人関心を寄せてくれないと感じている人々は，危険な状態に置かれているあなた自らの態勢が整い次第これらすべての人々に接近し，彼らを少しでも活発にさせるよう望んでいる。私が数年前プロボで出席した「夫と妻の会」で，ある美しい姉妹が，夫が活発になって以来家庭にもたらされた喜びについて証をした。彼女は夫と神殿に入っていた。彼女は自分の夫がどうして不活発になり，たばこを吸い始め，神権の昇進の機会にあずかれなくなったかを話した。また，そのような彼の心をある会員がいかにしてとらえ，その結果再びふさわしくなり，神権を受ける準備ができるまでどのように彼を助けたかについて語った。ついに監督が彼に神殿推薦状を与えるに至ったということも話した。彼女はそのすばらしい夕べについて語った後，言葉をついで言った。「この5人の子供たちは，私たち夫婦に結び固められたのです。この神の人は私たちに対し永遠の家族を宣言されました。」話を終えて証を述べた時，彼女は壇上から夫の座っている正面を見おろした。その瞬間，彼女は2人以外に人々がそこにいるということを忘れているように夫に向かって話しかけたのである。「お父さん。今この子たちがどんなに幸せか，またあなたが私たちのためにして下さったことにどれ程感謝しているか口では言えません。

神権をお持ちのあなたがいなければ子供たちも私も来世で家族として結び合うことができないからです。鍵を持ち，永遠の家族としての家庭の扉を開くお父さんがいることを神様に感謝しています。」

私は教会のあらゆる不注意な父親がこの女性の証を聞くことができるようにと望みたい。

祝福を受けることのできる昼間のうちに，すなわち暗黒が来る前に，今彼らを目覚めさせて欲しい。主が今そのような努力をなそうとしている私たちを助けられるように，またタナー副管長をはじめ今宵話をして下さった兄弟たちがあなたがたに与えたビジョンとメッセージ，すなわち神の子らの救いのために神が人を通じて働かれる力である神権を私たちが行使する時に，私たちができる事柄の概略を把握するのを主が助けられるように。

また私たちがそのように努力し，ビジョンをとらえ，今後数年間に決行しようとしている事柄の目的を完遂するのを主が助けられるように主のみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

著名な探検家との会見記

トール・ヘイ

トール・ヘイエルダールというノルウェーの伝説探検家について一度も聞いたことがないような人は世間にほとんどいないであろう。彼がコンティキ号，アクアク号，そして最近ではラーⅠ世号，ラーⅡ世号の冒険旅行で有名なのは周知のことである。彼らのように現代に貴重な貢献をしている人々について末日聖徒に知ってもらうため，ヘイエルダール博士と教会の若人たちとの会見記を掲載する。

問い――博士はどうしてこのような事柄に興味を持たれたのですか。

博士――それは1937年，太平洋のマーケサズ諸島の中の小島での生活体験から，私は海について興味を抱き始めました。おもしろいことには，初めて太平洋に行った頃，私はまるで水が恐ろしく，泳ぐこともできず，ボートや航海のことについては何も知りませんでした。当時，私はノルウェーのオスロ大学で動物学を専攻し，そのかたわら地理学と人類学を勉強していました。そして動物がいかにして太平洋の島々に，つまり断崖や何かで大陸から切り離された島ではなしに，火山活動によって隆起した島々に着いたかという動物学的調査をしたいと思い立って，妻と私はその島へ行きました。

その島にいる白人は私たちだけでした。そしてポリネシア人と共に暮らしているうちに，私たちは自然界と親密な触れ合いを持つようになりました。食物を得るためには，ジャングルに入ってそれを集めるか，カヌーで海に出て魚を釣るかしなければならなかったのです。そしてカヌーで海にこぎ出した時，海とは何かということについて教科書で学ぶのとは全く違った考えを持つのです。その年の間に，私は1年中，昼も夜も風と海流が南アメリカの方からきていることを発見しました。魚釣りに行く時に気をつけなければならない大切なことがありました。アジアの方へ遠くこぎ出しすぎると，二度と島へ戻れなくなり，また一方アメリカの方へこぎ出すと，いくらかいをこいでも岸へ戻されるということです。

このようなことがあって，私は考え始めました。当時科学者は，ポリネシア諸島に住んでいる人ははるか1万6千キロメートルの海をアジアから船で渡ってきたと考えていました。しかし私たちがアジアの方へ3キロメートルもこぎ出すと流されてしまう危険があるのに，その島に住んでいた人々がどのようにしてアジアから渡ってくることができたのかと不思議に思い始めました。私はむしろ，これらの人々は動物と同じように風と海流という自然の法則に従ってアメリカ側からやって来たと考える方がより自然ではなかろうかと思ったりしました。

しかし，この仮説は重要な問題を含んでいました。教師たちに強く感化されていましたので，私もまたポリネシア人はアジアから来たものだと確信していたのです。事実，マライ語とポリネシア語との間には数々の共通点があります。そして疑いもなく，ポリネシアにはアジアの影響がみられます。私自身にとってさえも，アメリカからの影響があるという考えは受け入れにくいものでした。そこで私は，多分アジア人はフィリピン群島から日本を経由して，風と海流がハワイへと流れをかえるアメリカ北西海岸まで風と海流に漂ってきたと仮説を発展させました。それでもなお，これは私にとって満足のゆくものではありませんでした。ポリネシアには，アンデスの偉大な文明と結びつく多くの類似点がありました。イースター島の巨像，書板に書か

れた象形文字，ピラミッド，ミイラ作り，脳の手術などがそうです。そのほかにもっと多くのことによって，アジアとではなく，南アメリカと結びつくのです。それで私は，人々は2つの異なった移動，1つはペルーからいかだを使う方法と，もう1つはアジアからアメリカ北西海岸経由の双船カヌーを使う方法によってポリネシアに着いたという学説を発表しました。

問い――博士の学説はどのように受けとられましたか。

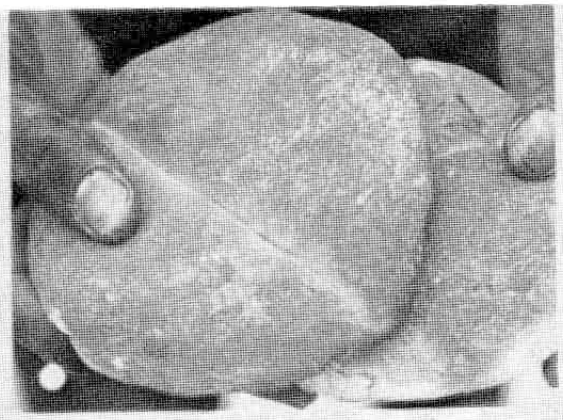
博士――非常な論争と論議を呼びました。科学者はいかだでアメリカから渡るようなことはできないだろうと言いました。私はたくさんの証拠をすでに集めていましたが，科学者はだれ一人読もうとしませんでした。彼らは，南アメリカの原住民が最も愛用していたのはバルサ材のいかだと，あし舟であるが，このような舟はすぐ水びたしになって2週間で沈むだろうと言ったのです。もっとも当時は私にさえ，あし舟というのは全く気違いじみて聞えました。それであし舟は放棄しました。しかし私は丸太のいかだなら航海ができるほど十分がんじょうであろうと考えました。幸か不幸か私は航海については何も知りませんでした。そうでなければ，決して続かなかったでしょう。しかし，私はそれが可能であるという自分の考えを信じていました。科学者は私にバルサ材のいかだは2週間で沈むだろうと警告し続けました。彼らは一片の乾燥したバルサ材をとり，それを水槽に入れました。するとそれは水を吸って2週間で沈んだのです。しかもインディアンがするように，ジャングルで，樹液のたっぷり満ちた木を切ったとしたら，この樹液は水の浸透を妨げる作用をするのです。そこで第2次世界大戦直後，4人のノルウェー人と1人のスウェーデン人を交えて，ペルーの伝説上の太陽神にちなんでコンティキ号と呼ぶいかだを作りました。私たちはペルーを出港し，101日間かかってポリネシアまで漂流したのです。いかだは到着後も数カ月間，ポリネシアの沖に浮いていたばかりかノルウェーに運んでから博物館に寄贈しようと陸にあげるまでオスロフィヨルドに6カ月間も浮かんでいました。

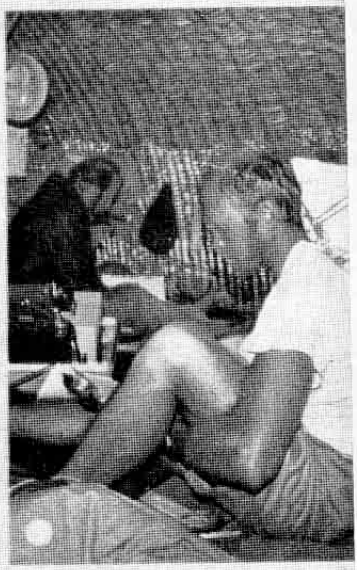
問い――コンティキ号の冒険旅行によって科学者の考え方はかわりましたか。

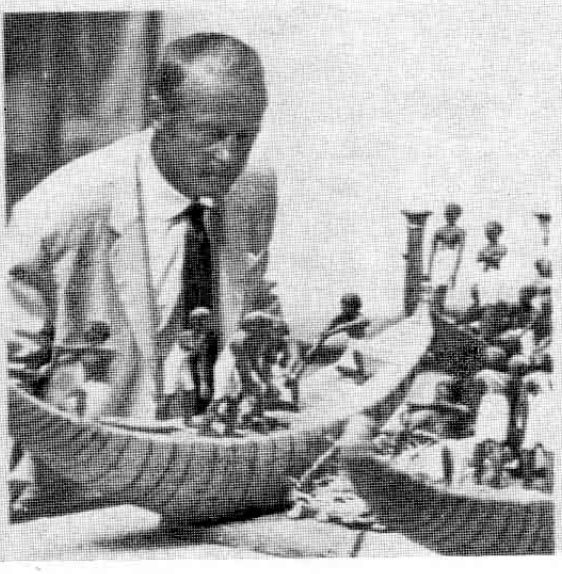
博士――大騒ぎになりました。みんなは私がすごく腕のよい船乗りだと思ったり，また私の腕前をもってしては決していかだで横断できないだろうと考えていましたが，それは私には全く滑稽でした。事実はと言えば，コンティキ号でもラー号でも両方とも乗組員は不慣れな人ばかりでした。そして航海に必要なことはすべて海の真只中で習得し，それは目的地に着くまで続きました。私はアメリカ合衆国でも，ソビエト連邦でも，ドイツやイギリスでも，そして地元のスカンジナビア諸国においても学説を擁護して闘わなければなりませんでした。それから何年もの間，私は闘い続けました。というのは，大部分の学者は，アメリカ大陸は海に孤立していて，陸続きで行ける旧世界の付録にすぎないという考えを容易に捨てようとしなかったからです。私は私の学説を支持する世界中の科学研究所や大学から招かれて講演しました。また私は最初に南アメリカ近海のガラパゴス諸島へ，次には南のイースター島やさらに遠くの島へ古学調査隊を率いて行きました。私たちはそこで初期のアメリカ原住民がこれらの島々に到着していたという考古学的，植物学的証拠を見つけたのです。しだいに私の学説は支持を受け，1961年にホノルルで開催された学術会議において，約3,000名の学者が東南アジアとともに南アメリカが太平洋諸島の住民と文化のおもな源であるという決議案を満場一致で採択したのです。

問い――なぜ，ラー号の冒険を必要とするようになったのですか。ラー号とコンティキ号の間には何か関係がありますか。

博士――あります。とても関係があります。でもコンティキ号の場合は学説を実証するためでしたが，ラー号の冒険のときは，そうではありませんでした。私はただ航海が可能か否かを知りたいと思ったのです。また，十分に納得のいかないことが1つありました。お気づきでしょうが，ポリネシアには，地球の裏側にあたる小アジアやエジプトと結びつく多くのつながりがあるように思われることです。たとえば，ポリネシアで太陽をさすラーという言葉は，古代エジプトでも太陽や太陽神をさす言葉でした。また中南米でよくみられるピラミッド建築，太陽崇拝，ミイラの作り方，道路建設やそのほかの特徴が大西洋を越えた向こう岸でも見られるのです。けれどもこのことは5年ほど前に，アルゼンチンで開催されたアメリカン・インディアンを専門とする学者の会議まで，具体的には私に直接関係ありませんでした。この会議で，私はコロンブス発見以前のアメリカ大陸と大西洋を越えて来た人々との接触の可能性についての支持派と反対派によるシンポジウムを組織するように頼まれました。いかなる接触もなかったと説明する多くの証拠が挙げられました。そのうちの1つにあし舟が挙げられていたのです。それは，ヨーロ







ッパで発見された当時，しかも最近までチチカカ湖でもアメリカ原住民が古代エジプト人がナイル川で使っていたのと同様の大きなあし舟を造っていたと指摘されました。しかし，専門家はエジプトからペルーへの航海が全く不可能な以上，これはただ単に２つの異なった民族の別々の発明を示しているにすぎないと語りました。さらになお，あし舟は航海に使えるほど耐久性が決してよくないし，２週間ともたないと付け加えました。それはちょうどバルサ材のいかだの場合と全く同じ話でした。私はあし舟について科学者の判断が間違っていると確信しました。

問い――あし舟についてはどの程度ご存知でしたか。そしてまた，なぜご存知でしたか。

博士――私は当時，あし舟がただエジプトとペルーにだけあったとする科学者の主張に間違いがあることを知っていました。私は，メキシコ発見当時，その舟がメキシコ中で使われていたこと，そしてまた同じくメソポタミア，エジプト，ギリシャやサルジニアの島々からモロッコの大西洋岸に至るまで，地中海沿岸の方々でも使われていたことを発見していました。そして，これらの地域は１つの断続的な道を形づくり，さらに遠くモロッコから中央アメリカへと続いているのです。そこで，もしあし舟で大洋を横断できたとしたら，そのときはアメリカと地中海の間に見られるこのようなあし舟に関する類似点やその他，文化面における類似点などは，並行して起こった独自の発展というよりはむしろ同一の基盤をもっていたいう根拠となるのです。ペルーから3,000キロ以上も離れたイースター島のクレータ湖の調査によって，私たちは島民がおおよそキリストの時代にペルーの人工灌漑による湿地帯からあしをもってきて，それを湖に植えたということを発見しました。このあしは，島民がチチカカ湖のあし舟と同じものを造れるようにと持ってこられたものです。あし舟が航海可能であるという，このことは私の心の内に大きな論議を呼び起こしました。

また，現代人が高度な文明を持つ古代メソポタミアや古代エジプトの人々よりも非常にすぐれていると考えるのは，大きな誤りであることがこの一連の調査によって明らかになりました。

私はあし舟はすばらしい船であると確信しました。そうでなければ，人々は決してその舟を造らなかっただろうし，またきっと数百年，数千年間も造り続けることはしなかったでしょう。しかしここでもう１度，私はそのような舟は馬鹿げていると言う科学者の反対に出くわしました。カイロにあるパピルス研究所でさえも，パピルスを水槽の中でテストして，その結果２週間たたないうちに完全に水に沈んだと主張しました。また海水中でもテストしそのときはパピルスは溶け始め，変質したと特に強調していました。しかし私はコンティキ号の経験から，舟の材料と舟とでは大きな違いがあることを知っていました。それはちょうど，鉄と同様です。鉄は水に落とすと沈みます。しかし私たちは鉄でクイーン・メリー号や巨大な戦艦を造ります。そして，その鉄の船は浮くのです。

問い――博士はどのようにして，あし舟の造り方を学ばれたのですか。

博士――私はあし舟を描いた古代エジプトの墳墓の壁画を詳しく研究しました。そしてちょうどバルサ材のいかだのとき，ペルーインディアンに学んだと同様に，今でもなおあし舟を造っている人々の助言を求めることが最もよい方法であると思いました。そこで，アフリカのモロッコより出るつもりでしたから，アフリカ人に尋ねることにしました。私は，今日でもまだあし舟を使っているチャド湖の部族へと向かいました。この部族の人々の助けを受けてラーⅠ世号を造りました。けれども，この部族の人々の造り方は古代エジプトの造り方とは違っていました。古代エジプト人はあし舟のへさきとともを曲げ，大洋航海向きに完全にそりかえらせていましたが，チャド湖には大きな波はなく，あし舟は象牙のようにへさきだけそりかえった形に造られていたのです。

問い――なぜ，ラーⅠ世号は失敗したのですか。それによって，どんなことを学ばれましたか。

博士――ところで，ラーⅠ世号を造ったときのことを少し話すと，どんな船乗りでもするだろうと思われることを私たちはしてしまったのです。私たちはチャド湖の造船家の最上の助言と指導を活用しましたが，それでも犯しそうな誤りをすべて犯してしまいました。これらすべての誤りと失策にもかかわらず，それでもなお，アメリカに向かってただよい続けました。それについてはすべきことは何もなかったのです。私たちはただ流されるままに流れつくだろうと予想していた所に向かっていました。しかし，バルバドス島まで約960キロメートルのところにきた時，それまでに波が小さな船室を何度も前後にゆり動かしていたので，片一方の側のロープがついに切れてしまい，あしが流失し始めました。私たちはロープをもって，舟の下にもぐり，あしをしばらなければなりませんでした。カリブ海の近くにきて，私たちのまわりを約30匹の鮫が泳ぎまわるようになったので，この作業は中止されました。エジプト人の友がもう少しで足をなくしそうになったので，私はすべての潜水を止めさせました。そして，船がしだいにバラバラになり，私たちの後ろでパピルスが美しく浮んでいるのをながめて，満足しなければなりませんでした。その舟は実に，２カ月後もまだ浮いていました。私にはつらい決断でした。私の友人たちはみな航海を続けたがっていました。リーダーとして私は航海をやり通せるだろうということと，パピルスがまだ十分残っていることをよく知っていました。しかし，私はまた，１，２名の命を失う恐れもあることも知っていました。私は科学の実験が，命をかけるほど価値が

あるとは決して思っていませんでした。みんなが続けたがっており，それでも放棄することを決断しなければならないのは，とてもつらい気持ちでした。しかし私たちはそのとき中止しました。

問い――ラーⅡ世号の旅行に出ようと決心されたのはいつ頃でしたか。それはラーⅠ世号にまだ乗っている頃ですか。

博士――いいえ科学的にみて，ラーⅠ世号はラーⅡ世号よりもたいへん多くのことを実証しました。ラーⅠ世号は初めから完全な漂流航海でした。港を出た最初の日に２本のかじを両方とも壊してしまったのです。そして目的地に向かいました。ところで，１人の船乗り以外全員が不慣れな人々で，中の１人は海水を飲むまで，それが塩辛いことさえ知らなかったのです。そのようにして予定地に向かいました。

また，私たちはあし舟が２週間たっても沈まないことを明らかにしました。55日以上も乗っていたのです。そして私たちは書物にあるすべての誤りを犯していたのです。もし私たちが古代人の知識を持っていたら航海することはもっと容易であっただろうと思いました。ラーⅠ世号で航行した距離は大西洋を最短距離で横断するほぼ２倍にあたりました。ですから，ラーⅠ世号での航行の終りには，私は２回目の探検を企てようなどとは思ってもみませんでした。

問い――ラーⅠ世号に対する科学者の反響はいかがでしたか。

博士――ええ，そのことが原因で，私はラーⅡ世号の冒険をすることになりました。私はそれでもなお，横断できなかったと主張する極端な孤立主義者が現にいることを発見しました。彼らは残された最後の数百メートルを問題にしていたのです。そして，そのことは非常に重要であって，実際に着いていないから横断できるという可能性を証明してはいないと主張しました。また，私自身のあし舟に対する好奇心からラーⅡ世号を造り続けました。調査研究を続けるうちに，ボリビアにあるチチカカ湖のアイマラ・インディアンが，中央アフリカの舟よりも，古代エジプトの舟にたいへんよく似た舟を造ることを知りました。彼らの舟を造る方法や，またパピルスを束にする方法がたいへん異なっているので，２度目の実験をする価値があると感じました。そこで私はラーⅡ世号を造るために４人のアイマラ・インディアンを海を越えてモロッコに連れて行きました。私たちはラーⅠ世号よりも３メートルばかり短い，長さ12メートルのそしてデザインも前とは違うラーⅡ世号を造りあげました。私たちは1970年５月17日に出帆して，57日間に5,200キロメートルを航海してバルバドス島のブリッジタウンに着きました。ところで，ラーⅠ世号の時は，1969年５月25日に出港して，７月18日にはバルバドス島まで約960キロメートルの海上で放棄していたのです。

問い――ラー号の航海のために船員をどのようにして集められたのですか。

博士――私は言語，政治，宗教，文化の違いにもかかわらず，私たちは一緒に働くことができるのだということを説明するために，いろいろな国の人を集める考えをもっていました。そこでラーⅠ世号には，いろいろな国の友人や，また友人の推薦によって７人を選びました。ラーⅡ世号のときは８人で２人を除いてラーⅠ世号のときと同じ顔ぶれでした。

私はノルウェー人です。そしてただ１人の本物の船乗りは数年前タヒチで会ったことがある土木技師のアメリカ人でした。メキシコ人の人類学者，イタリア人の登山家，ロシアの医者，エジプト人の潜水夫が一緒でした。ラーⅠ世号にはアフリカのチャド湖のパピルス専門家が乗り込みました。ラーⅡ世号では，このチャド湖の部族民をモロッコの商社員と交代し，さらに日本人のカメラマンが加わりました。乗組員を選ぶにあたっては，人類の争いを象徴する人々，すなわち黒人と白人，ユダヤ人と回教族，ロシア人とアメリカ人を慎重に選びました。

問い――実験は満足のゆくものでしたか。

博士――非常に満足できるものでした。多分それ以上満足な旅はなかったでしょう。多少の論争と問題はありました。特に言葉の問題がありました。嵐の最中など舟の一方の側にいて他方の側にいる人の言っていることが聞こえませんでした。私たち独自の一種のエスペラント語を作り出すまでは，英語，仏語，伊語を使いました。しかし問題はほんとうに少なかったのです。人はだれでも本能的に協力できるようになるものです。乗組員が混成ではなしに，全員８人がノルウェー人であったらもっと多くの問題があっただろうと思います。乗組員がただ生き残るためだけに協力していれば，舟の上も狭くはなく，また抑圧もそんなにないということを学びました。航海は実にスリルのある経験でした。航海を終える頃には，全員とても仲のよい友人になっていました。

問い――私たちはみなモルモン経を勉強しています。そして博士の新旧両世界の比較に関する思想に関心を持っています。

博士――私は，モルモンではありません。そして私の結論に達したのはいかなる宗教的信念によるものでもありませんでした。私たちが全く異なった方法を使って１つの同じ結論に達したことを私はよく知っています。私に言えることは，調査研究をすればするほど，新世界の人々と旧世界の人々との関係について，モルモンが異なった径路で達した結論と私が理解している結論とは密接になるということです。私は，研究の結果，地中海沿岸地域とメキシコ湾沿岸地域との間にはある種のつながりがあることをますます強く感じています。

聖句クイズ

ジョン・A・トゥベッドネス

大勢の識者は，歴史はそれ自身繰り返すと主張します。このことは様々な理由から興味深い考えですが，聖典の中に，全く同じか，あるいは似かよった情況が１度ならずたびたび起きていることを知ればもっと興味が湧いて来ます。

さあ，下に書かれたそれぞれの条件に対して，２つ以上の実例を思い出せるかどうか試して下さい。

もしそれぞれのヒントに１つずつ答えられれば，あなたはかなりよく勉強したか，日曜学校のレッスンをたいへんよく覚えたことになります。

もし全部で５つ以上書くことができなければ……あなたは聖典を毎日読むことについて考えたことがありますか。

もし全部の状況に対して，２つ以上の例を上げて答えることができたらすばらしいですね。

Ⅰ．少量の食物が非常に大量になった。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅱ．水が裂けて人々が通ることができた。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅲ．死んだ少年が甦った。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅳ．自分の命を救うために，妻を妹だと言った。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅴ．濃い暗黒が地の上を３日間覆った。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅵ．光の柱が予言者に現われた。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅶ．エライジャとモーセが彼らの鍵を授けるために再来した。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅷ．海を越えて約束の地に導かれた。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅸ．旅人たちは飢餓からの救いを見出すためにエジプトへ下った。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅹ．１人のイスラエル人が王の夢を解き明かすために召され，外国政府の顧問となった。

1. _____ 2. _____ 3. _____

Ⅺ．主を信じない者が地に打ち伏せられ示現を見て改宗した。

1. _____ 2. _____ 3. _____

聖句クイズ答え

ここに挙げた以外にも似通った出来事が聖典の中にあるかもしれません。

Ⅰ．エライジャがザレパテでやもめの油と食物をふやした。（列王上17：10—16）彼の後継者，エリシャはパンと穀物を百人分にふやした。（列王下４：42—44）イエス・キリストが，魚とパンを使って同じ方法で五千人分にふやしたもうた。（マタイ14：13—21，マルコ６：30—44，ルカ９：10—17．ヨハネ６：１—14）

Ⅱ．このことはカナンへの旅の途中イスラエルの民の上に２度起こった。紅海で（出エジプト14：21—30）またヨルダン川で。（ヨシュア３，４）

Ⅲ．エライジャはこのような奇蹟を行なった（列王上17：17—24）そしてその後継者エリシャも同じことをした（列王下４：18—37）

Ⅳ．アブラハムは自分の命を救うため同じこの方法を２度用いた（創世12：10—20，20：１—18）．その息子イサクは彼の例を見たらった。

Ⅴ．出エジプトの時代の災害の１つは暗黒であった。（出エジプト10：21—23）イエス・キリストが十字架にかけられたもうた時，新大陸でも３日間の暗黒があった。（Ⅲニーファイ８：１—10：９）旧大陸では３時間続いただけであった。（マタイ27：45，ルカ23：44—45）

Ⅵ．いろいろな場合にモーセの前に現われた火の柱が，聖典におけるその最初の例である。（民数９：15—17，出エジプト33：７—11他）他に光と火の柱がリーハイ（Ⅰニーファイ１：６）とジェセフ・スミス（ジェセフ・スミス２：16—17，30，43）に現われている。

Ⅶ．これは１度は変貌の山でペテロ，ヤコブ，ヨハネの上に起き（マタイ17：１—４），１度はカーランドの神殿で，ジェセフ・スミスとオリバァ・カウドリの上に起きた。（教義と聖約110：11，13—16）

Ⅷ．ノアは旧大陸を目指して新大陸を去った。（創世７，８）ジェレド（イテル6），ミュレク（オムナイ14，16；モーサイ25：２），とリーハイ（Ⅰニーファイ17，18）は反対に旧大陸から新大陸へ向かった。

Ⅸ．アブラハム（創世12：９—10）とその孫ヤコブ（創世42—43）の２人とも飢饉のためにエジプトへ逃げなければならなかった。

Ⅹ．このことはヨセフ（創世41）とダニエル（２—４）の両方にも起こった。

Ⅺ．これはアルマの息子アルマの上に起こった。（モーサイ27：10—32）これはまたラモーナイ王と后の上にも（アルマ19：１—29，36：６—10）起こり，また同様にラモーナイの父とその僕たちの上にも起きた。（アルマ22：17—26）

もっと詳しいことについては，聖典の各章節を読みなさい。

質疑応答

この記事は，教会の教義を教えるためではなく，読者にとって参考となり，何らかの助けを与えるためのものである。

「若い姉妹は伝道に出るべきでしょうか。」

これには２つの質問が含まれている。１つは伝道は若い姉妹によいものを与えてくれるだろうかということであり，もう１つは，若い姉妹は伝道に向いているだろうかということである。

最初の質問に対する答えは，ほとんど一般的にいって肯定的なものである。積極的な態度と奉仕したいという望みを持つほとんどの若い姉妹は，伝道に出ることから大いに有益なものを受けるであろう。そのような若い姉妹は，証を築き，生活の進路を確固たるものとし，寛容と愛の精神を発達させてゆくことができる。また自信と積極的な態度を築き，家，両親，家族に対する感謝の念を持つことができ，神殿のみではなく，日の栄光の王国へも共に夫を選択することの重大さを，もっと明白に理解できるようになる。己を考えずに他人に対し全時間働くことからもたらされる喜びと満足を感じるであろう。

若い姉妹は伝道に向いているだろうか。

この質問については，一般的にということでは答えられない。それは個人的な事柄である。今日，典型的な姉妹宣教師は，活気にみちていて，若く（通常21才を過ぎたばかり）熱意があり，平均的な長老よりも約２倍も改宗させるというこれまでの伝統にあずかることになろう。若い姉妹は普通，社会的な圧力にしいられてではなく，人々に仕えたいという望みをもっているがゆえに伝道に出る。

個人的問題の解決を見い出そうと伝道に出る人は，そぐわない気持を感じるようになる。伝道地での厳しいスケジュールは，奇抜な行動をしたり，個人的問題を解決するための時間，場所をほとんど与えてくれない。

若い姉妹と伝道という主題について，私の私的な諮問委員である３人の子供に相談した。（養女の）レオラは，北部カロライナ・ヴァージニア伝道部で働いており，ロージャーはワシントン伝道部から今年帰還し，グレッグは最近カリフォルニア中央伝道部で働いている。ここに３人の論評の要約をのせる。

レオラ：「ある人たちは，姉妹の方がずっと近づきやすく，またもっとよく姉妹たちにこたえてくれます。夫が家を留守にしていて普通奥さんが家庭へ男性を招きたくないと考えている人たちの多い軍事地域については，特にこのことが確かであるのがわかりました。」

ロージャー：「私たちの伝道部にいる姉妹宣教師はよく働き，良心的で，いつも喜んでやっています。」

グレッグ：「書く時間はそうありません。走らされました。疲れています。なぜって，きょう私たちは，ほかの姉妹たちと一緒に働いたのですが，やりすぎる位でした。姉妹たちは地域の生命です。」

グレッグは宣教師の仕事を決心する助けとして，教義と聖約第４章を読むよう勧めてきました。「されば汝らもし神に仕えんと望むならば，汝ら神の業に召さるるなり。」（教義と聖約４：３）

２つの資格に注意しよう。それは望みと委任である。神に仕えたいとの望みが，姉妹をして（あるいは長老をして）伝道の召しを受け入れさせる動機となる。もし神に仕えたいという望みが充分強いなら，宣教師は100パーセント神より委任されて，「心をつくし，勢力をつくし，思いをつくし，体力をつくして神の役務をなす」（教義と聖約４：２）ことを理解するであろう。もし心がそこになければ，肉体をその目的のために投入する理由はないのである。神からの100パーセントの委任が，伝道の仕事を楽しくし，物を生み出す経験の場とするのである。この委任なくしては，伝道の仕事は長いみじめな時間となってしまう。

では報いはどうだろうか。「……勢力をつくして鎌を入るる者は亡びずしてその身も霊も救いを得るために庫に積み入るるなり」（教義と聖約４：４）「……わが御父の国に於て彼〔あなたの導いた改宗者〕と共に汝らの悦び如何ばかりぞや」。（教義と聖約18：15）と約束されている。

アーサー・S・アンダーソン
教師養成委員

2

「どのようにして，結婚するにふさわしい人を見出したと知ることができるでしょうか。私はどれ程歩み寄らねばならないのでしょうか。私と私のボーイフレンド（活発な会員）はうまくいっていますが，またよく言い争いをします。」

解答：ドーウイン・L・トーマス

このような，またこれと似たような質問が，伴侶の自由選択様式（結婚する人は相手の選択に大きな責任がある）が発達してきた現代の多くの西欧社会で尋ねられる。ある社会では，決してこのような質問がなされたことがない。というのは，両親が，娘を結婚させるのにふさわしい人を見つけ出す責任を負ってきたからである。しかし我々のまわりはそうではない。女の子は自分で決定しなければならない。

ふさわしい人が現われれば，女の子は「心に感ずる」ものだとある人々は言っている。また他の人々は，もし女の子が賢明であれば「感情が理性をおぼれさせることはしない」と言っている。前述の相対立する格言の中に，多くの人が伴侶を選ぶにあたって，経験する基本的な矛盾をみるのである。すなわち，どの程度人は感情や情緒に頼っていいのか。また，どの程度分析や理性に頼っていいのか迷うのである。両親が理性的，分析的要素（よい家系の出だとか，聡明で働き者だとか）を強調しながら，子供のために相手を選ぶ一方，西欧社会では，感情の側面の大切さが強調されている（本当に恋していれば心に感ずるものだ）。

末日聖徒が伴侶を選択する過程にあって，もし結婚しようという決心が全く感情や情緒に従ったものであれば，伴侶の選択には２つの様相があることに気づき，その上で決定するようにしたらよいと思う。もし男性あるいは女性が，時々冷静に，理性的に，相手の長所，短所を分析できないとなると，きっと，理性や分析を除外して感情や情緒が２人の関係を支配してしまうことになる。相手の選択過程にあって，理性を働かせることは可能であるが，我々の社会にあってはまれである。

慎重な考えが，感情と同様に相手の選択にあたって重要であるというだけでは，何を慎重に考えるべきなのか答えが残されたままになっている。ここに聖典や，社会学の考えから，最善の答えと思われるものをあげよう。それは「２人に共通のものが何かを慎重に考えてみる」ことである。このことを見通す１つの方法は，家系をさかのぼってよく調べることである。研究すると，同じグループの中で（宗教的，倫理的背景や，社会的，経済的地位）結婚している人々がうまくいっているように思われる。あなたがた２人は同じ価値を認めているだろうか。友人だろうか。同じタイプの人や，同じタイプの活動を楽しんでいるだろうか。以上の質問全部にハイと答えられないかもしれない，がしかし，少くともどの質問に答えられないかはわかるであろう。そのことは，もしあなたが結婚するとしたら巻込まれる危険性が何かを教えてくれることであろう。

これまでのことで，ある人は次のように尋ねるかもしれない。「慎重な考え方や理性について，どうしてこれ程強調するのだろうか。人間自身の理性を余りに強調しすぎて，人の生活の中での神の影響力を除外してしまってはいないだろうか。祈りによって神に尋ね求め，私の婚約者はふさわしい人かどうか知ることはできないだろうか」と。

聖典は，我々が良きことのために進んで働き，我々の自由意志で多くのことをするようにと告げている。（教義と聖約58：26―29参照）その上，すべてのことを命じられてやることは良くないと勧告している。永遠の伴侶の選択はまさしく良きことであり，それと同様にこの地上での必要な経験のきわめて大切な部分である。我々はそのような経験を得るために地球にやってきている。伴侶の選択にあたっては，熱心な祈りにあわせて，かなり分析的な思考をも必要とすることは明らかである。

聖典はまた，ただ神に祈り求めて答えを得るよう望んではならないと勧めている。我々は自身の心で問題を研究し，結論に達するように心がけ，その上，祈りによって神の助けを熱心に求めるべきである。（教義と聖約９：７―９）参照もし我々がおのれの分を果たさなければ，我々が祈り求めるからということのみで，神が答えてくださるとは期待できない。しかし，もし我々が力の限りを尽くしその上主の前に行って祈るなら，相手を選ぶ決心をするような瞬間でも主は我々を見捨てたまわないであろう。そのような時，我々はたびたび，神が我々の祈りを聞きたまい，それまでの努力を受け入れられ，次の段階に進むよう我々に命じておられるという確信を得るのである。

ふさわしい人を見い出すために，多くの質問がなされるということは，ただの１度，ただ１人，そのような人を見つければ，すぐに永遠の無上の喜びが結果としてもたらされるという考えがあることをほのめかしている。そのような考え方は，ともすると，発見の要素が強調されすぎて，創造の要素を低く評価しがちになる。多くの場合，もしその発見が今までにない程大切なものであれば，発見のあとには創造の行為が続かねばならない。このことは，特に永遠の伴侶の選択についてあてはまることである。人は次のような事柄によって，ふさわしい人を見出したと知ることができる。(1)明確に考え，自分の心で探求する。(2)自分の努力に対し，確認を与えて下さるよう，祈りによって神の助けを求める，そして(3)相手を見つける

ことは，永遠の創造の始まりにすぎないことを覚悟する。人は努力なしに創造はできない。このように，今あなたがふさわしい人を見つけたと思っても，新しい生活を造り出してゆくにあたって，喜んであなたの分を，また相手も自分の分を果たそうとしないなら，将来いつかは，相手をふさわしくない人と思うようになる。過去のみを見つめず（あなたがた２人がどのような人であれ），未来を眺め，２人が進んでどのようになりたいと思っているかを尋ねあってみなさい。あとの質問に対する答えが，あなたが結婚するのに，その人がふさわしいかどうかをもっと明確に語ってくれるであろう。

もし，あなたと，予期されるあなたの相手が共通に持っているものを慎重に考え，あなたと多くの理想を分けあえる人を選ぶなら，あなたが持っている真の価値で，相手と歩み寄らねばならないものは，ごくわずかであろう。確かに，あなたの価値にそって生活するに必要な，確信，安心，心の平和を，相手から受けるであろう。永遠の価値を分け合う２人が，終生，共に努力しあうなら，破局に至る言い争いはほとんど経験しないですむであろう。２人が一緒になって解決しなければならないような不一致が将来起こるかもしれない。しかし，もし建設的に２人の相違を解決するなら，永遠の生活へと導く目的に対し一致を増すであろう。

ドーウィン・L・トーマス
ワシントン州立大学
社会学部助教授

3

「日曜日の勉強やレクリエーションはどうでしょうか」

このことを自問する人はだれであっても（私もまたある時自問したことがあった），決して答えが得られない危険におちいる。なぜなら，このような質問のありかたは，問違った観点から，あらゆる可能性を見つめて，答えを求めるからである。

この質問は要するに，「日曜日に勉強したり，遊んだりするのは悪いことだろうか」と尋ねているわけである。ある人がこのような活動を有益であると考えている時に，日曜日にそのような活動をしてはいけないということが，その人には理解できないかもしれない。そこで，つまるところ，この質問への答えは，それらの活動をするには他の週日であってもさしつかえないということである。

だが，もしある人が違った尋ねかたをするなら，その人は，私の信じていることが答えになると認め得るであろう。高校時代，大学時代，また大学院当時の日曜日をふり返ってみると，私が主から託されたことを果たし，必要のある人々を見舞い，聖典を読んで主のみたまを享受した思い出が楽しく，またそれを大事にしている。その他のことは悔やんでいるものもあれば，忘れてしまっているもの

解答：テーリー・ワーナー

もある。日曜日には，それ自体悪くはなく（勉強のように），安息日の特別なみたまにあずかっておれるようなことをした。「日曜日に，勉強や，レクリエーションは悪いだろうか」ときく代わりに，次のように尋ねたらもっと有益であろう。「勉強やレクリエーションは，安息日の祝福に充分あずからしてくれるだろうか。」このあとの質問に対する答えは，それらの祝福を妨げるどのようなものも安息日にはふさわしくないということになる。

ある人は遅れをとらないために，友達のように日曜日に勉強する必要があると考えている。大学院の学生は特にそのように考えがちである。私にとっては，そのような考えは問違いであると思う。そのような状況で必要とされるものは，勉強の質的な面である。頭が澄んでいて，心にやましいことがなく，敏活で，理性的に自信がある，そのような質的な面なのである。単に日曜日に量を増すだけでは，必ずしもその人に質的な時間を加えることにはならない。その反対に，日曜日の勉強では，学生は，勉強時間に有益なさえた頭，敏活さ，主の積極的な援助を受けているという感覚を失いがちになる。一方もし彼が，安息日に主が与えて下さる平安な，心を新たにしてくれるみたまにあずかるなら，勉強を役立たないものにする内的な障害――落ち着きがなくなる，遅れているというあせり，罪の意識――は，他の週日には普通最小のものとなるのである。

「安息日を覚えて，これを聖とせよ」。（出エンプト20：８）人が物事を聖なるものにするには犠牲が必要である。この場合，学生は主に対し日曜日をささげることである。いずれにしても実質的には悪でない種々の活動を，来たる１週間を通じて，安息日の聖さを保つために，放棄することである。

テーリー・ワーナー
ブリガム・ヤング大学
哲学科准教授
オーナーズ・プログラム・ディレクター

すべてはよし

メアリー・プラット・パリッシュ
絵：バージニア・サージェント

トミーのおとうさんは，ガーデン・グローブからカウンシル・ブラフスに向かう人々の中にいました。彼らが目的地に着いたのは6月のはじめで雨の季節はすぎていました。

ブリガム・ヤングは人々にあとから来る聖徒たちのために畑を耕し，穀物を植え，家を建てるよう伝えました。6月の終りまでに，西部に向かって出発する人々のための準備は終りました。ある日，トミーは4人のアメリカ合衆国兵士が馬に乗ってキャンプに入って来るのを見ました。その兵士たちは指導者に話をさせてほしいとたのみました。

昼に，ブリガム・ヤングはみんなを集め，アメリカ合衆国軍のジェームズ・アレン陸軍大尉を紹介しました。アレン陸軍大尉は1歩前に進み出て話しました。「アメリカ合衆国は，メキシコと戦争をしています。大統領は500人の男の人たちを軍隊に入れ，カリフォルニアに向かわせるようにと私をここへ送ったのです。」彼が話し終わるか終わらないうちに，みんながいっせいにざわめき始めました。

その時ブリガム・ヤングが立ち上がって言いました。「もし私たちが良心に従って神を礼拝することができるところへ行きたいと思うなら，大隊を組織しなければなりません。私は兵隊になった人が1人も国家の敵の手に落ちないと約束します。私は全力を尽くして家族の世話をします。私は自分の食べ物がある限り家族を養います。500人の兵士が受け取る給料は，谷にいる彼らの家族が受け取れるようにします。兵隊として行くことは正しいことであると思います。私はあなたがたが必ずそうすると信じています。」

アレン陸軍大尉が去った後，集会が開かれました。そのあとで，何人かの兄弟は義勇軍を集めるため，ピスガに向かって出て行きました。トミーとおとうさんは顔を見あわせました。何も話さなくても，トミーにはおとうさんが何を考えているのかわかりました。2，3分しておとうさんは前に進み出ました。トミーには，おとうさんが志願しようとしていることがわかりました。

ブリガム・ヤングが，ピスガ山とガーデン・グローブでモルモン大隊の兵を集めてもどって来た時，ふたごのパーキンソン兄弟と彼らのおとうさんがやって来ました。パーキンソン姉妹はガーデン・グローブで死に，パーキンソン兄弟は子供たちとカウンシル・ブラフスに向かっているところでした。彼は帰るまでエライジャとエリザのめんどうをトミーのおかあさんが見ていてくれるなら，モルモン大隊に志願したいと思いました。

「トミーと私は，おとうさんがいない間，もう1台の荷馬車にだれを乗せることができるかしらと思っていました。ベッツィーも長い間，妹をほしがっていたんですよ。」トミーのおかあさんはほほえんで言いました。

すべての準備ができ，パーキンソン兄弟はトミーのおとさんと大隊に加わりました。7月20日，大隊はピットのブラスバンドに送られてリーブンワースとりでに向かい，それからカリフォルニアまでの長い旅を始めました。

トミーは大隊を見送りながら，おとうさんの言った言葉を思い出しました。「トミー，私はお前を１人ぼっちにしては行かないよ。兄弟たちはお前を助けてくれるだろうし，天のおとうさまはいつもお前のそばにいてくださるのだよ。」

大隊が見えなくなった時，ブリガム・ヤングは後に残された人たちに話をするために荷馬車の荷台の上に立ちました。トミーは話に耳を傾けました。

「今年はこれ以上西へは進まないつもりです。そのかわり川の向こうで冬の間キャンプすることにします。そこには冬の間食料となるたくさんの野生のえんどうがあります。家畜の分も十分にあります。それに家畜のえさとなる背の高い草もたくさん刈りとることができます。」

「インディアンは私たちがその土地にとどまって，材木や水を使うのを許してくれました。おかえしに私たちは彼らがとうもろこしを刈り入れるのを手伝い，できれば彼らととりひきもしたいと思います。」

「寒い冬が来る前に，草原の草を取り入れて，野原を耕し，そこに作物を植え，家を建てるために，働ける男の人や子供は努力しなければなりません。」

「私たちはあす，川を渡り始めます。荷馬車と人々を運ぶのには渡し船がありますが，千頭の牛と羊と馬とらばは泳いで渡らなければならないでしょう。」

「私たちの行く手には，大きな苦難があります。しかし神さまはいつも私たちを守ってくださるので，決して失敗することはありません。」

次の日，トミーとエライジャは２台の荷馬車が渡し船に積み込まれるのを待ちました。それから牛を解き放し川岸へ追って行きました。エリザとベッツィーとおかあさんは牛の持ち主のオールドネルを待っていました。

トミーのおかあさんはおそろしくなりました。「向こう岸までかなり遠いわ。川は深そうだし，まっ黒な

色をしてるわ。川の中にたくさんの牛が入ったら，いったいどうなるのかしら。でも，きっとだれかが私たちの牛をつれて行ってくれるわ。」

トミーは，ちょっと考えてから，「おかあさん，ブリガム・ヤング大管長が，少年も自分のつとめを果たさなければならないって言ったの覚えてる」とたずねました。

「お互いに助け合おうよ」とエライジャが言いました。

「もし私たちに助けが必要なら，だれかが助けてくれるわ。」

トミーのおかあさんはトミーとエライジャをだきしめてから，エリザとベッツィーと渡し船にもぐって行きました。

トミーとエライジャは川の中へ牛をうまく入れてから，先頭の群れの牛にそれぞれ飛び乗りました。最初牛はおびえたようでした。それで少年たちは牛にしがみついて行くのはむずかしいと思いました。しかし，2，3分すると牛はしっかりと泳いでいきました。あたり一面牛でした。その牛は荷馬車を渡し船に乗せて運んでいる人たちのものでした。1頭があばれ出すまではすべてはうまく行きました。トミーは足でそのあばれ牛を押しのけようとしました。それからやさしい声で話しかけようとしました。でもそれはむだなことでした。おびえた牛はトミーの牛に突きあたり，トミーはもう少しで川に落ちそうになりました。その牛の持ち主が「トミー！角をつかめ」と叫びました。

トミーがふと見ると，あばれ牛はすぐ横にいました。とても近くにいたので，角をつかめば，川の中に落ちすぐにその牛の背中に乗り移ることができるほどでした。そのときエライジャは，「今だよ，トミー！今だ！」と大声で叫びました。

トミーは自分の乗っている牛をその牛の角の方に向けて，おびえている牛の角をつかみました。もう少しおそかったらあぶないところでした。トミーは牛の背中に乗り，その牛を静めることができました。まもなく牛はむこう岸に向かって進んで行きました。

牛が無事にむこう岸に着くと，エライジャは，「トミー，君はすばらしかったよ！」と叫びました。

その牛の持ち主はたいへん喜びました。「もし君がいなかったら，私たちは本当に困っていただろう」と言いました。

トミーはうれしくなりました。しかし彼はその牛の持ち主とエライジャの助けがなかったら，決してそんなことはしようとも思わなかっただろう，と思いました。また天のおとうさまの助けがなかったら，うまくいかなかったろうと思いました。

彼はおとうさんが大隊に入って出かける時言った言葉を再び思い浮かべました。「私はお前を1人ぼっちにはして行かないよ。兄弟たちはお前を助けてくれるだろうし，天のおとうさまはいつもお前のそばにいてくださるのだよ。」

おとうさんが行ったあと，最初に知ったのは，すべてはうまく行くということでした。

マリア・モリナはひざの上のレースの白いハンカチをいじりながら，静かにすわっていました。彼女はこの日，9月18日を待ちに待っていました。しかし今までにきょうほどみじめな思いをした日はありませんでした。

彼女の青いドレスは，伝統的なクエカのダンス用ドレス（チリの民族衣装）のように見えました。おかあさんは，青いもめんのスカートにていねいに三段のひだを入れてぬってくれました。首にまいた三角形のふちかざりのあるスカーフは，おばあさんが身につけていたものでした。マリアのかかとの高い黒いくつは，歩いたり踊ったりすると，カチカチ音がしました。中央のラマダ（葉の多い枝で作られた日陰）には友だちや近所の人たちがいっぱい集まり，大声を出したり笑ったりしていました。ユーカリの木の枝のかおりは，焼きたてのミートパイのかおりと混ざり合って，あたりにこうばしいかおりをただよわせていました。テーブルの両側にすわった人たちの前にきちんと並べられたミートパイは，マリアにはすべてのチリ人に「おめでとう，独立記念日！」というこうばしいメッセージを運ぶふかふかした包みのように見えました。

マリアは目を上げて，両親がいるところの向こうのかべのそばに友だちといっしょに立っている弟のルコの方を見ました。彼は11才の少年にふさわしいカウボーイのかっこうをしていました。ルコはおとうさんの，コピーウェイ（厚い，青白い花びらのチリの国

優　勝　者

ロビサ・ハータド

絵：リズ・ダンラップ

花）の花のししゅうがしてある赤と白と青の四角い布で飾られているぴったりした黒いズボンとボレロを着ていました。彼の黒いくつはみがきたての鏡のようにつやが出ていました。そしてカチカチ音を出すための大きな銀の拍車がそのかかとにはめてありました。ルコはその拍車を動かすこともなく，くつに目をやりながら，両手で帽子のつばをゆっくりまわしました。彼は2日前からずっと同じようなきびしい顔つきをしていました。マリアはもう彼を見ていることができなくなりました。

マリアは彼のところへ走って行って，「あれは事故だったのよ。どんな人でも事故に合うものよ」ともう一度言いたい気持になりました。

マリアは彼がおこるのも無理はないと思いました。2日前に彼女は裏口からルコの自転車を借りて行ったのです。もしルコが家にいたら貸してくれると信じていたし，一刻も早く衣装を仕上げたかったからでした。

彼女は自分の衣装を仕上げるために，1日中おかあさんと一緒にぬい物をしました。その衣装は少年クエカコンテストに着るものでした。ルコは彼女のパートナーになるはずでした。そして彼らが優勝することはまちがいありませんでした。彼らはすでに学校の競技会で優勝していました。また先生は，彼女ほど伝統的なチリの踊りをじょうずに踊る人を見たことがないと言っていました。

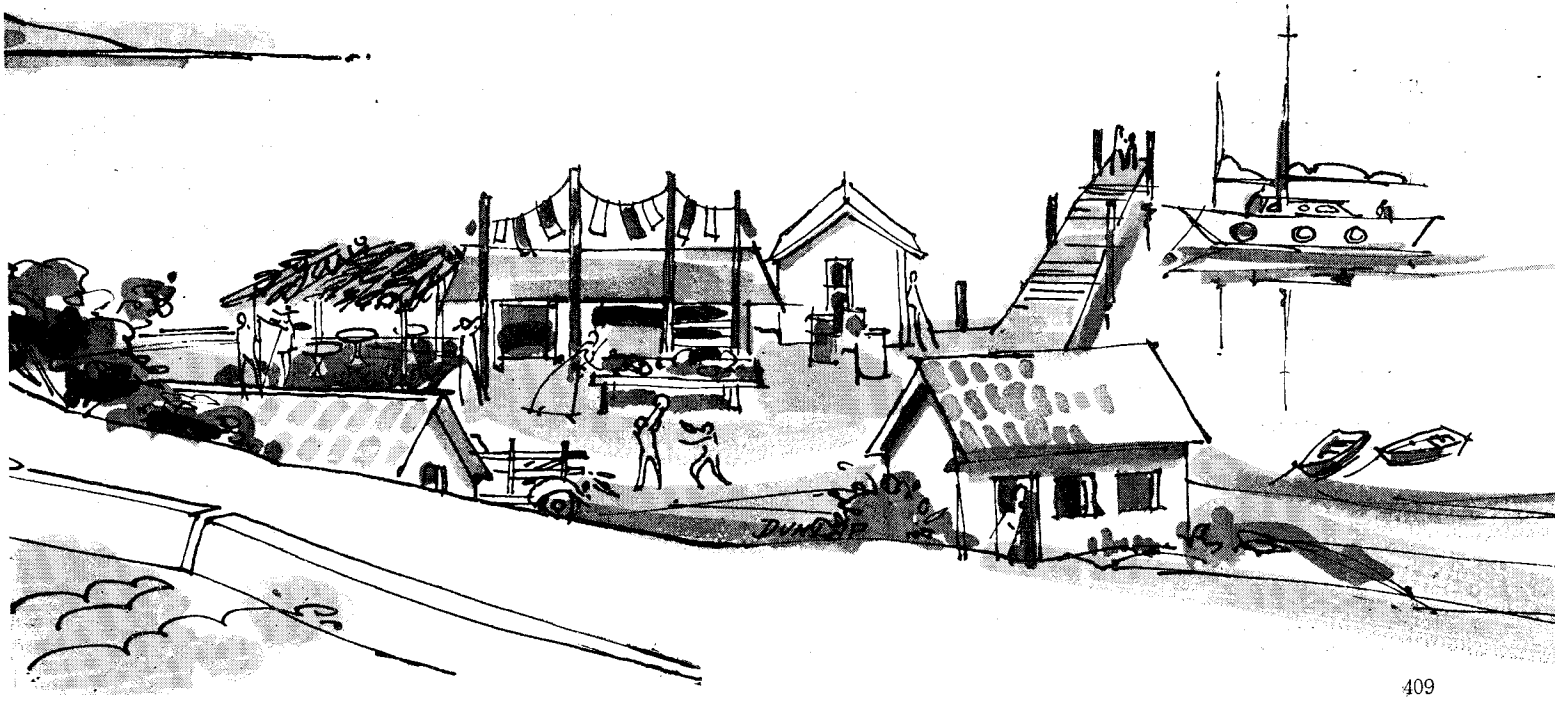
その日まだ早いうちにルコは，「賞金の分け前を何に使うの」とマリアにたずねました。彼女はためらうことなく，「セニョーラ・ベアスクエズのお店のウィンドーにあるおさいほう道具を買うのよ」と答えました。「ぼくは自転車にとりつけるかごを買うんだ」とルコはきっぱりとした口調で言いました。

おかあさんはミシンを動かす手を休めて，ほほえみながら2人を見て言いました。「独立記念日はクエカを踊ったり，賞金をもらうためだけの日ではないのですよ。それは独立した日のことを思い出す日でもあるのよ。」

「それはみな学校でならったわ」とマリアが声を張り上げて言いました。

「そうだよ。建国の父，バーナード・O・ヒギンズとカレラスとマヌエル・ロドリゲスについてもみんな教わったよ」ルコはマリアの言葉につけ足しました。

「それじゃ，あなた方はこういうことを知っているわね。あの人たちはみな考え方が違っていたのよ。でもね，ばらばらに行動するより独立のためにいっしょに働く方が大切だと考えて，いっしょに独立のために戦ったのよ。私にとってはそのことが9月18日の一番



大切なことだわ。」

マリアはおかあさんが言ったことを考えながら自転車のペダルを踏み続けました。道路の左側の平地にはラマダが建っているのが見えました。またその向こうには青々としたチリの海が果てしなく続いているのが見えました。彼女の目は，そのような景色にすいつけられました。また骨組みだけしかできていない小さなラマダがたくさん建っていて，そこでは食べ物が売られたり，産物がならべられることになっていました。突然彼女の目は他のどのラマダよりも高いむきだしの支柱に向けられました。それはコンテストが開かれるはずのラマダでした。たぶんルコはそこで，まわりの丘から切り取って運んで来た鋭いユーカリの木で骨組みになっている高い支柱をおおう手伝いをしているのでしょう。

その時，事故が起こりました。マリアは落ちていた枝に気がつきませんでした。それはたぶんトラックが一段高くなっている歩道を乗り越える時に落ちて，坂をラマダの方までころがって来たものなのでしょう。

ガタガタン！金属がセメントにぶつかってもつれるような音がしました。マリアは自転車上からユーカリの木の大枝の中に飛ばされてしまいました。あちこちひっかき傷ができましたが，大したけがはありませんでした。ルコの自転車はめちゃめちゃになりました。前の車輪は曲がり，スポークはこわれてしまいました。

ルコは全部見ていたらしく，マリアが立ち上がると同時に，彼女の方に走って来ました。

「だいじょうぶ？」ルコは心配そうにマリアに聞きました。しかし自転車を見ると，その心配はいかりに変わったようでした。

「お店に行こうと急いでいたの」彼女はわけを説明しました。

「もう2度とぼくの物に手をふれないでよ！」そう言って彼は自転車を起こしました。そしてそれをぐるっと丘の方に向けた時，涙がこぼれそうになりました。

「もう絶対に！」

ルコがおこるのはもっともでした。2日間彼はほとんど口をききませんでした。マリアが賞金の自分の分を自転車の修理代に回すからと約束しましたが，それでもルコはマリアを許そうとはしませんでした。彼女はクエカのことばかり考えていました。そのこみ入った型のことや，チリの人ならだれでも知っているその正確な動きや，審査員はどんなところを注意して見るだろうかなどと，あれこれ考えていました。でもステップだけでは十分ではありません。ダンスで大切なのは，踊る人の姿勢と熱意と真心です。マリアは目を上げて部屋の向こうの方を見ました。彼はまだ冷たい表情をしていました。しかしその目はダンス会場の方に向けられていました。彼女の頭はいろいろな考えでいっぱいだったので，アナウンスを聞きのがしてしまい

ました。そして最初のグループの4組がもう位置についているのにも気がつきませんでした。

バンドがクエカの曲を弾き，群集はリズムに合わせて手拍子を取り始めました。マリアの目には涙があふれて来ました。葉の茂ったかべや近所の人たち，木の板をしいたダンス会場が目の前に浮かび上がりました。たとえ踊ってもどうにもならないのに。彼女は思わず席を立つと人々の前を通ってラマダの後の出口の方へかけて行きました。

いったん彼女は外に出ました。すずしいそよ風が彼女のほほをなで，かみにふきつけました。彼女は売店やぶたやにわとりを入れてある囲いを通り過ぎてラマダがたくさん立ち並んでいる所から抜け出しました。2日前自転車事故のあった所へ行って，そこでこれからどうしたら良いか考えようと思ったのでした。

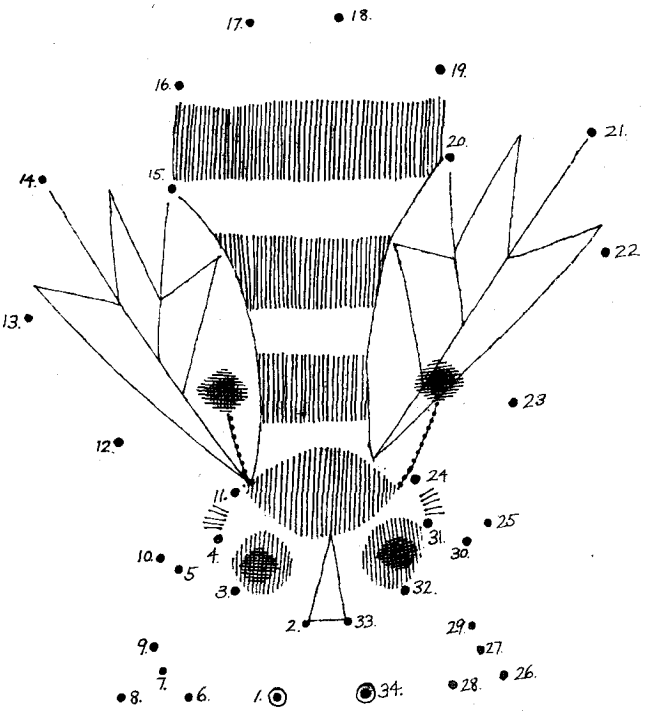
マリアは曲り角のところに腰をおろしました。涙がとめどなくほほを流れました。そしてそれは白いスカーフもぬらしました。後ろの方では人々が叫んでいるのが聞こえました。しかしもう，コンテストのことはどうでもよいと思いました。彼女が考えていたのは，ルコとまた仲良くなりたいということだけでした。

マリアは後に近づいて来る足音に気がつきませんでした。だれかが肩に手をおいたので後を振り向くとそこには目を輝かせながらルコが立っていました。

「おかあさんは正しかったね。ぼくたちは何か大切な物を得ようとする時には，自分のことは忘れて，まず協力しなければいけないんだね。」彼はマリアに近寄り，マリアが立つのを助けました。そして「優勝することなんかどうだっていいよ」と彼女にほほえみかけて言いました。それから彼は向きを変えると，ラマダの方へ走って行きました。

マリアは急いで彼の後を追いかけました。ルコは彼女の弟ということだけではなく，彼女の一番良い友だちでした。そのことは自転車よりも，おさいほう道具よりも何よりも，大切なことでした。マリアは，もしコンテストが笑顔に重点を置いて審査されるなら，ルコと自分は必ず優勝すると思いました。

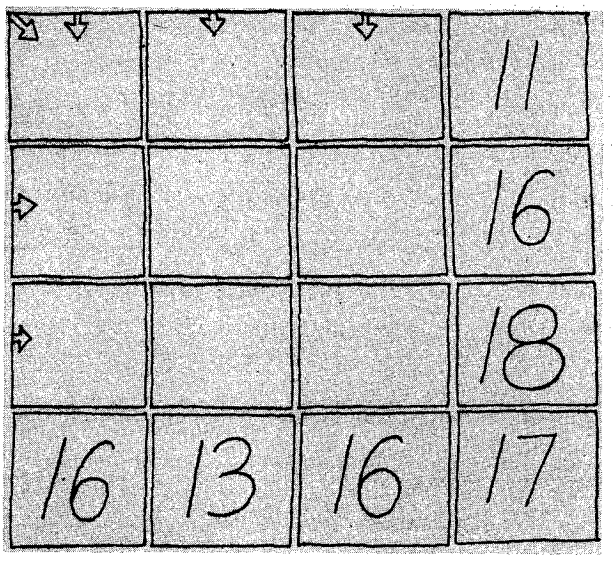
点を結びましょう



数字のパズル

ミルトン・ハマー

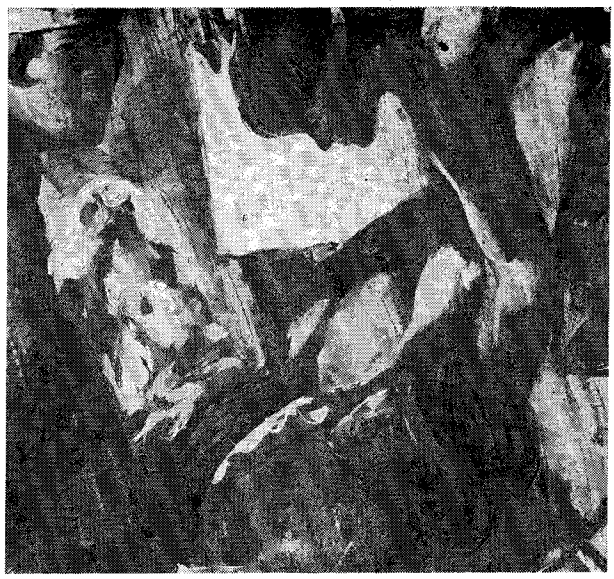
1から9までの数字をあいているところに入れて，それぞれの列の合計が数字と一致するようにしなさい。



答　上 4,1,6　中 9,5,2　下 3,7,8

息子のアルマ

マーベル・ジョーンズ・ガボット
絵：ジェリー・ハーストン



息子のアルマは神を信じていませんでした。父のアルマは人々に，神を愛し，いましめを守るようにしきりにすすめました。しかし息子のアルマはそれに全然耳を傾けようとはしませんでした。というのは彼は謙そんになることも，近所の人たちを助けることにも興味がなかったからでした。彼は教会へ行って，神様を礼拝したいとは思いませんでした。その当時，おとうさんの言葉を信じようとしない若い人がたくさんいました。彼らはどうしてもバプテスマを受けようとはせず，真の教会にも入ろうとしませんでした。

息子のアルマは話がじょうずでした。たくみな言葉使いで人々の心をまどわし教会から離れさせようとしました。彼には４人の友だちがありました。それはモーサヤの息子たちです。彼らはアルマを中心として，悪いことをするのを楽しんでいました。

主はアルマとその友だちを愛していましたが，彼らの行ないを許すことができませんでした。

ある日彼らがひそかに神様の教会をほろぼし，主の聖徒たちをそこから遠ざけようとしていた時，１人の天使が彼らの前に現われました。その天使は，まるで雲の中にいるかのように降りてきて，雷のような声で話したので彼らの立っている地がゆれ動きました。彼らはとても驚いて地上に倒れてしまいました。そしてその天使の言っていることがわかりませんでした。しかし天使はまた大きな声でこう言いました。

「アルマよ，立ち上がって私の言うことを聞きなさい。なぜおまえは神の教会を迫害するのか。」

アルマは何も言うことができませんでした。天使は続けて言いました。「主はすでにその聖徒たちの祈りも神のしもべであるおまえの父アルマの祈りもお聞き入れになった。おまえの父はおまえに真理を知らせようとして堅い信仰を持っておまえのために祈った。それであるから，神のしもべたちの祈りがそれぞれの信仰に応じてかなえられるよう，私は神の権能と威力とをおまえに認めさせるために来た。おまえは神の能力を疑うことができるか。アルマ，悪い行ないを改めよ。二度と教会を亡ぼそうとしてはならない。」

アルマと一緒にいた人たちは，再び地に倒れました。アルマの驚きはたいへんなもので，彼はおしになり，話すことができなくなりました。そしてまた彼はたいへん弱り，手を動かすこともできませんでした。彼の友だちはアルマをかついでお父さんの所へ連れて行きました。彼をおとうさんの前に置いて今あったことをすっかりアルマのおとうさんに話して聞かせました。すると，おとうさんはそれがまったく神のみ力であることを知ってとても喜びました。

そこで父親のアルマは，主が自分の息子と友だちになされたことをすぐに知らせようとして，おおぜいの人を呼び集めました。そして人々や祭司たちは断食をして祈り，息子のアルマが物を言えるよう口を開いて下さるように，またその手足を強くして下さるように，そしてまた民の目を開いて神の恵みと栄光とを認めさせて下さるようにと願いました。

２日２晩して，アルマは立ち上がり話し始めました。そしてアルマは言いました。「私はあがない主をしりぞけ，父から教えられた真理を否定していました。でも私は罪を悔い改めて主はあがなわれました。私は暗やみの中にいましたが，今は神の驚くべき光を見ています。主はご自分の造ったすべてのものを忘れたまわないことと，主がたしかに神であることを，私は知っています。」

この時から，アルマとモーサヤの４人の息子は宣教師になりました。彼らは多くの人々に真理を知らせ，主が生きておられることをのべつたえました。

ブリガム・ヤングと社会的責任

アーサー・R・バセット

ある若者は，それまで通りの生活をすることに満足している。しかし，人生はどうあるべきかという考えが少しでも脳裏をかすめた人は，自らの力でその夢を現実に変えるために，あらゆることをみるまでは決して満足しない。

ブリガム・ヤングはそのような若者だった。彼は想像力に富み，可能性を追い求める人であり，この地上に神の王国を建てるということに全く心を奪われていた。彼にとってこの王国は天上の幻ではなかった。それは自然の可能性であり，新しい生き方であり，社会にとって新しい模範であった。そしてこの夢はエレミヤの言葉を借りるなら，「主の言葉が私の心にあって，燃える火のわが骨のうちに閉じこめられる」ようになるまで，彼の心に生きづいていた。

彼は，「私はこれまでジョセフ・スミスが予言者であることを知ってきたこと，また神の御子の再降臨に備えてすべての物が整うまで，私たちはジョセフ・スミスが始めた仕事（神の王国の建設）を続ける力を持っていることを考える時，いつもハレルヤと叫びたい気持になる。これは末日聖徒に課せられた任務であり，私たちのなすべき務めである」と言った。

この夢は，彼の目標にも生活にも，そして最後は永遠の行く末にも影響を及ぼした。

ブリガム・ヤングのように，若いうちにそのような目標へ心を開くことのできる人々は，本当に幸わせである。彼はもし目的があり，特にその目的がこの地上に神の王国を建設することであるなら，そのために払ういかなる犠牲も重荷にはならないと思っていた。彼はニューヨーク州メンドンで大工をしていたが，この目標を実現させるために，その仕事をやめた。それから彼の勢力的な活動が始まり，ソルトレークに家を建てるまで，わずかの間も手を休めることはなかった。

ブリガム・ヤングは1832年の早春，雪の降る日にバプテスマを受け，その場で按手礼を受けた。また服が乾かないうちに，そこから2マイル離れた彼の家で長老に聖任された。そして最初

ソルトレーク市で1850年に写されたブリガム・ヤングの銀板写真

の妻がなくなり，予言者ジョセフ・スミスとの初めての会見をした重大なその年がまだ終わらないうちに，ブリガム・ヤングは再び雪の中を伝道に出て行なった。今度はカナダの人々とこのすばらしい福音を分ち合いたいという思いにかられてのことだった。

確かではないが，ブリガム・ヤングの最も初期の写真と思われる。

12月の寒い中を，ブリガム・ヤングと彼の兄弟ジョセフは，カナダの奥地のキングストンに向けて徒歩で旅行を始めた。

この２人の若い長老は，ひどい雪の中を400kmも歩かなければならなかった。その旅路のひどさといったら，深さ45cmの雪の下に泥が30cmもあるといったありさまであった。雪の下にまでもぐってしまうようなところを歩いたことのある人なら，この２人の経験がどんなに大変なものであったかわかるであろう。その苦境に加えて，この旅行中10kmの道は氷におおわれていた。氷はたいへん薄く，足がその下までもぐってしまい，靴の半分のところまで水がしみこんだ。

２カ月の間２人の宣教師はその地で伝道し，45人にバプテスマを施した。

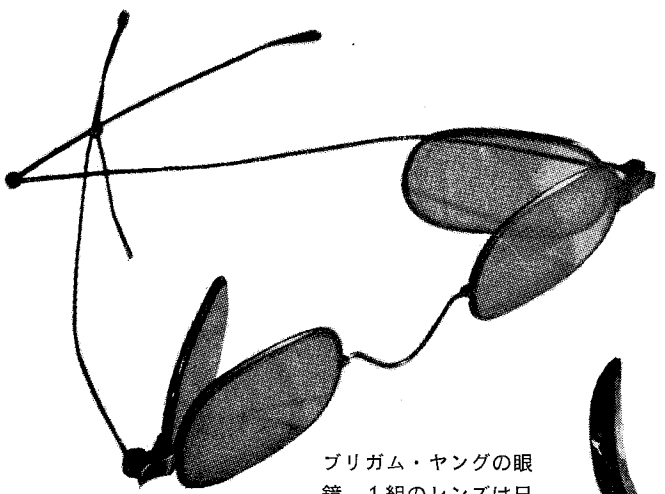
自分自身の弱さを知ったことのある若者ならだれでも，ブリガム・ヤングにとっても，伝道生活は容易なことではなかったことを知って，感謝することだろう。彼は自分でも「人を十分理解させることのできる言葉はほとんどないのではないか」と考えた。

そして彼は「私は，人々の前に教えを示してもそれをどう表現してよいかわからない時に，どんなにか頭が痛かったことだろう。しかし私は意志を強く持っていたので，いつも最善を尽くした」と言っている。

ブリガム・ヤングはさらに１年を伝道し，その後カートランドに小さな家庭を持った。そこで彼は予言者ジョセフ・スミスと親しく交わった。さらに20人が，彼の２度目の伝道で王国に入った。彼はその人たちをカートランドに導いた。そして後に彼らを導いて西部へ移動することになった。かつて，ブリガム・ヤングはオハイオ州の北部にあるカートランドの静かな小さな町に落ちついて，予言者ジョセフ・スミスから，心の清い人々の住むシオンについて学んだ。

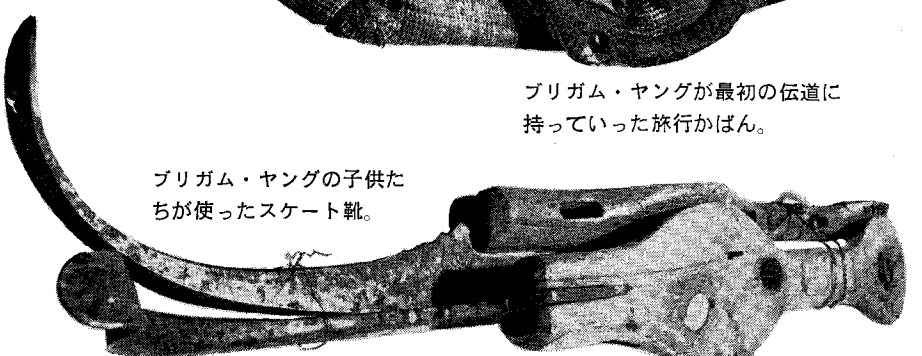
シオンを起こすためのもう１つの大きな犠牲は，1834年にブリガム・ヤングが，ジョセフに同行して「シオンの陣営」に加わった時にやって来た。ミズーリ州の聖徒が暴徒に家を追われ，助けを必要としているという知らせがカートランドに届いた。助けを求めるその訴えはカートランドの兄弟たちに向けられていた。ジョセフと205人の兄弟たちはこの嘆願に応じた。力には力で立ち向かおうとしたのである。その陣営の人々は，長旅の果てに死が待ち受けているかも知れないと考えていた。

ブリガム・ヤングの時代の人々は長



ブリガム・ヤングの眼鏡。１組のレンズは日常用で，もう１組は読書用。

ブリガム・ヤングが最初の伝道に持っていった旅行かばん。



ブリガム・ヤングの子供たちが使ったスケート靴。

く歩くことに慣れておいたが，このような行進は初めてだった。ヤング大管長は後日，宣教師として働いていた時には来る日も来る日も歩き続け，足からは血が出るほどだったが，しかしその伝道活動も，初夏の暑い中を毎日行進したあの時の苦しさに比べたら楽なものであったと語っている。

行進を続けていくうちに激しい疲労が人々を襲い，忍耐心が弱くなり，わずかのことにも気をとがらせるようになった。そしてついに，激しいけいれんを起こして死んでいく恐ろしいコレラが発生した。これより2年前にアメリカではコレラが大流行した。そのためその徴候はよく知られていた。それは下痢と発作的な吐き気とひどいけいれんが起こり，顔が青くなってやせ衰え，脱水状態になって手足が冷たく黒ずんできて皮膚がしわだらけになるのであった。1日に，さらには1時間に何人もの人が亡くなった。病人は，あたかも斧で切り倒されるかのようにバタバタと倒れていきそうな気配であった。シオンの陣営にいた人の中には，そこから逃げ出そうとする者も出てきた。しかしブリガム・ヤングはそこを去ろうとはしなかった。ジョセフ・スミスは病人の看病をし，死人を埋葬するために最も活発に働いた1人として，ブリガム・ヤングの名前を記録している。シオンの陣営での経験後まもなく，ブリガム・ヤングは1835年に組織された最初の十二使徒評議員会の一員として，ジョセフ・スミスより召された。新しい召しは，ブリガム・ヤングに多くの変化をもたらし，彼は今まで以上に責任の重さを感じたのだった。しかしイエス・キリストの再降臨のためにすべてが整うまで，ジョセフ・スミスが始めたその仕事を続けるという彼の生涯の目標は何ら変わらなかった。これから大まかに述べる使徒のブリガム・ヤングの2つの経験は彼が目標達成のためにたゆまぬ努力をしたことを物語っている。どちらも1839年の出来事である。

その1つは2月のことであった。ジョセフ・スミスがリバティーの牢獄に捕われていたので，ブリガム・ヤングは十二使徒評議員会会長として教会の実務を管理していた。彼にその新しい責任が与えられたのは，トーマス・B・マーシュが背教し，クルックト河畔の戦いでデビッド・W・パテンが戦死したためであった。当面の問題は聖徒をミズーリ州からイリノイ州に移動させることであった。ほとんどの人々は移動のための十分な準備をしていなかった。そして急に立ち去るというので，自分だけなんとか逃げようとする気配が強かった。しかしブリガム・ヤングは，心の中でこれは神の真の聖徒のとるべき態度ではないと考えた。もし人々が愛と哀れみを持たず，お互いを気づかうことをしないなら，社会は決して長続きしないのである。

そこで会が召集された。署名者は，貧しい人々がみな一緒に去ることができるようになるまで助けるという誓約を立てた。ブリガム・ヤングと彼の家族は，ヒーバー・C・キンボールの家族を伴なって（キンボール長老はミズーリ州にとどまった）寒い2月の空の下を荷馬車でイリノイを目指して出発した。それはモルモン教徒の移動の中で最も勝手の違う移動の1つであった。

凍りついたミズーリの平原を30kmほど進んだ後，ブリガムは馬車を止め妻と5人の子供のために仮小屋を建てた。そして彼は出発点へ戻り，貧しい人々や聖徒を何人か馬車に乗せて，家族のところへ戻った。彼の往復した距離は，実際彼の仲間たちの進む3倍にあたった。その後旅の終りに，イリノイ州クインシーで感動的な会合が開かれた。貧しいために去ることができずまだファーウェストにとどまっている50家族のことを知ったクインシーの聖

ブリガム・ヤングの専用列車の絹線ビロード張りの椅子。

徒たちは，もう一度一堂に会した。そして帽子や上着や靴などわずかに残っている持ち物を売ってこの移動のための資金にしたいと申し出た。ブリガム・ヤングは次のように述べている。

「私たちはパンをさいて，聖餐にあずかった。その会の終りに50ドルのお金が集まり，兄弟たちを連れて戻れるようにと数頭の馬が寄付された。寄付した人の中には夫と息子をハウンズミルの大虐殺で失なったウァーレン・スミス未亡人がいた。彼女はこの慈善伝道のためにたった1頭しかない馬を差し出したのである。」

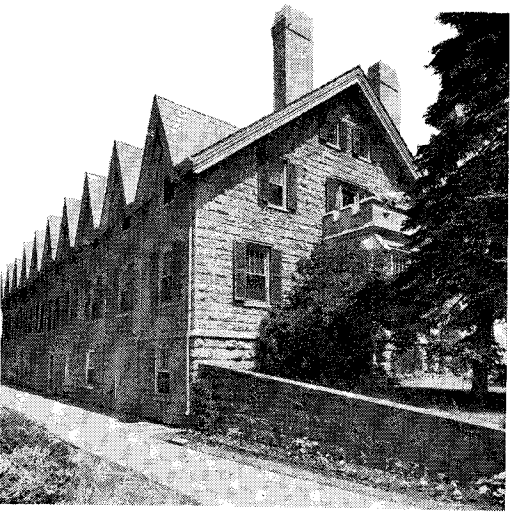
このような経験やその他似たような多くの経験を通して，ブリガム・ヤングは，人々がみな愛のうちに移動し，愛とお互いへの思いやりに基づいたキリストの望まれるような社会を建設する能力を持っているという強い確信に奮い立った。

神の王国建設のためにはいかなる犠牲をも払うというブリガム・ヤングの決心を示すもう1つの出来事は，イギリスへの伝道活動を含む1839年9月から1840年2月の間に起こった。その焦点となるのはニューヨークへ旅行する時のことであった。十二使徒が特別な伝道に出る時が来た。しかしブリガム・ヤングは，ほかの多くの兄弟たちと同じように，マラリヤの症状を見せて倒れた。

全身の痛みに苦しみながらも，アイオワ州のモンテローゼで彼はどうにかこうにかベッドからはい出して，旅行に出る身支度を整えた。彼は自分の外套を持っていなかったので，まにあわせに，ゆりかご用の掛け布団を使った。彼の子供たちはみな熱病にかかり病床にあった。妻もまた病気でありながら，小さな生後10日の子供の世話をしなければならなかった。ミシシッピー川までそこからわずか160mであったが，ブリガムはその岸までさえも歩くことができなかった。近所の人が荷馬車をしたててくれ，ブリガム・ヤングはそれにやっと乗り込んで川まで連れて行ってもらった。川に着くと彼は対岸まで舟をこいでもらった。そこから，イスラエル・バーローが彼を馬に乗せ，ノーヴーのヒーバー・C・キンボールの家まで連れて行った。そこで彼は倒れ，4日間身動きができなかった。

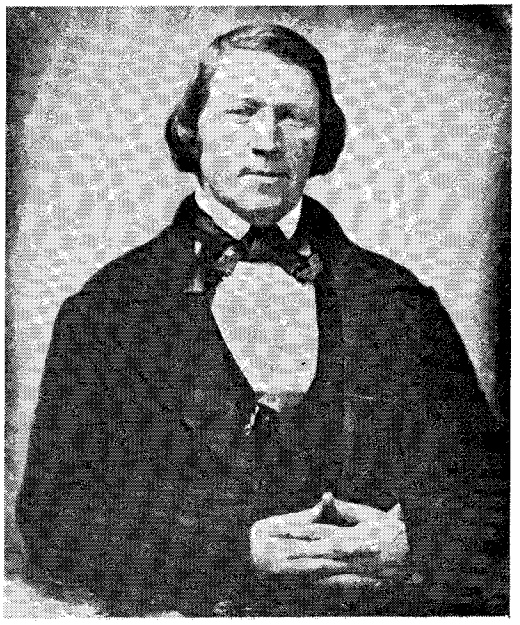
ついに出発の日が来た。宣教師たちは東の方を目指して去って行った。ブリガム・ヤングは荷馬車の後部に乗った。インフルエンザの苦しさを知っている人は，熱病にかかっていたブリガム・ヤングが，イリノイ州とインディアナ州の間のいなか道を荷馬車にガタガタ揺られて行つた時，どんなにつらい思いをしたか想像できるであろう。4カ月後，ブリガムはついにニューヨーク市に着いた。しかしまだ苦難の道は続いた。ブルックリンでフェリーボートに乗船する時，彼はどうしたわけか落ちてしまい，大きな鉄の輪にぶつかって左の肩の骨をはずしてしまった。2人の兄弟が彼をしっかりと甲板に押さえつけている間に，パーレー・プラットが彼の手をつかみ，ブリガム・ヤングの脇に足をかけ，その手を引っぱった。その苦痛は耐えがたいものであったが，ヤング長老は右手でその肩の骨をついだ。そして彼らがたき火のところへ連れて来た時，ヤング大管長は意識を失ってしまった。その後数日間，自分で服を着ることができなかった。

気の小さい人なら，こうなるずっと



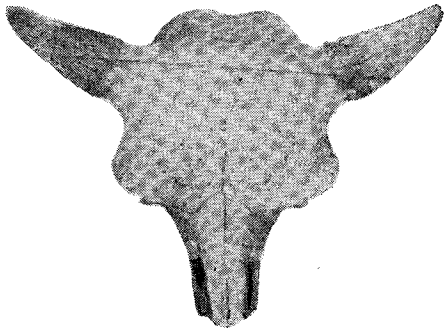
1855年頃にブリガム・ヤングの住居として建てられた。20のとがった屋根を持つライオン・ハウス。ブリガム・ヤングは1877年ここで死亡。

ユタで精練された最初の鉄から作ったブリガム・ヤングの靴脱ぎ器。



1850年当時の大管長

大管長の記した頭蓋骨の上の伝言



1867年，エコーキャニオンを下って移動するモルモン移住者の写真。

以前に失望し，途中で挫折したに違いない。しかしブリガム・ヤングは神の王国建設にかかわることを決して中途半端にする人ではなかった。彼は船に乗り込み，イギリスへ行く途中ずっと船酔いに悩まされた。イギリスに着いた時はひどくやせ衰えていたので彼のいとこのウイラード・リチャーズでさえ，それが彼だとわからなかった。

何カ月もの熱心な伝道活動の後，彼は家へ戻った。彼の犠牲は主に受け入れられた。ノーヴーに帰り着くと，ヤング長老は次のような祝福の言葉を受けた。

「親愛なる兄弟ブリガム・ヤングよ。誠に主かくの如く汝に告ぐ。わが僕，ブリガムよ。汝はもはや今までの如くに，汝の家族と離るるを汝に要求せらるることなし。汝の捧物はわが喜ぶところなればなり。

わが名のために為したる旅行中の汝の働きと，労苦はわが認むるところなり。

されば汝はわが言を広く世間に及ぼすことを為し，今よりこの後いつまでも汝の家族を特に護るべきことを命ず。アーメン。」（教義と聖約 126：1—3）

これはブリガム・ヤングが予言者としての務めを果たすための準備となった。彼はこの地上に神の王国すなわち地上のシオンを建設するという強い意志に従い，一度ならず幾度も文字通り自分の命を投げ出して神の務めを果たした。彼は自分の生活すべてをその目的のために捧げた。彼は心からそれが正しいと信じていた。

そのように十分な準備をしたために後に彼は理想的な社会を建設するために人々を導く人として主の目に最も適う人となった。彼のキリストへの献身は完全なものであった。主の予言者として，彼は晩年このように述べている。

「私は絶えず夢の中にシオンを描いてきた。私たちは天使やエノクやその仲間が来てシオンを建てるのを待つことはない。私たちがそれを建てるのである。私たちは自分で小麦を育て，家を建て，農場の囲いを作り，ぶどう園と果樹園を作り，私たちの心をなごませ幸せにするいろいろなものを生産するのである。そしてこのようにして，私たちはこの地上にシオンを築き，あらゆる汚れからそれを清めるのである。（生活の問題を述べているこの言葉は，今日の私たちにとって重要なものである）」

さらに彼は続けた。

「私たちは自らの力をあらゆるところに及ぼそうではないか。私たちの耕した土，私たちの建てた家，そして私たちが所有しているすべてのものに神聖な力を及ぼそう。もし私たちが堕落した仲間を持つことを改め，私たちの心の中に，家に，市に，国中に神のシオンを建設するなら，最後に私たちはこの地上の勝利者となるであろう。なぜなら私たちはこの地上の主だからである。そうすれば，あざみの代りに人の食物となり，地上を美しく色どるいろいろな植物が生えるであろう。」

つまり，ブリガム・ヤングが計画した社会の建設とは，ただ単に多くの市や果樹園を作ることではなかった。それは天使が住まうにふさわしい宮居を建て，地上に天国の一部を建設することであった。そのために教育は大切な役目を果たすものであった。そして彼は，西部のシオンが，私たちの模範から何かを得ようとして集まる世の人々

の名所になることを期待していた。

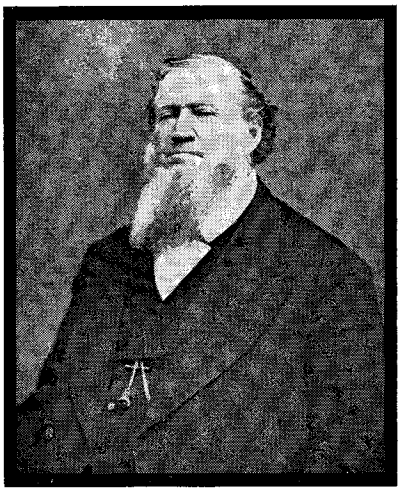
彼の夢はなお多くの点で満たされてはいない。なぜなら，私たちの多くがその重要性を理解していないからである。ある人は私たちの世代にこう尋ねたがる。「今日の教会において，ブリガム・ヤングのような心を持った若者はどこにいるのか。」それに対する答えはこうであってほしい。「ここにいます。まさにこのワード部に，この支部にいますよ。」

注1．シオンの陣営——啓示によって1834年5月7日に編成された。ジョセフ・スミスは，それぞれの隊長を持つ幾つかの隊の総司令官であった。

ブリガム・ヤングの生涯
(1801～1877)

	年令	
1801.6.1	—	バーモント州ウィッティンガムで出生。
1815	14	母親死亡。生計を立てるため働き，大工となる。
1824	23	ミリアム・ワークスと結婚。彼女は1832年に死亡。
1832	31	バプテスマを受け，長老に聖任される。
1834	33	メアリー・アン・エンジェルと結婚。
1835	34	使徒に聖任される。
1839—41	38—40	英国で伝道。
1844	43	ジョセフ・スミス殉教。十二使徒評議員会会長として，教会の指導者となる。
1846—47	45—46	聖徒をソルトレークに導く。
1847	46	大管長に支持される。
1850	49	ユタ准州の知事となる。
1853	52	ソルトレーク神殿の首石を置く。
1857—58	56—57	ユタ戦争。
1867	66	タバナクル完成。
1877	76	西部の最初の神殿，セント・ジョージ神殿が献堂される。
1877.8.29	76	死亡。

ブリガム・ヤング



ブリガム・ヤングのために特別に作られた机。彼と副管長が使った。

汝するなかれ

スターリング・W・シル

しばらく前に，私はある大実業家が，成功するための方法として興味深い話をしているのを聞いたことがある。彼が何かを達成することについて考える時，まず第一に行なうことの1つはいかなる状況下にあってもしてはならないことをはっきり定めることだというのである。すなわち，もしだれかがビジネスに入ろうとするならば，そこには前もって完全に永久に禁止され，制御されるべき不正直な行ないや，不当な手段が存在するのである。あるいはまた幸福な結婚を計画する時にも，決してあってはならない不義や不誠実が存在する。行なってはならないことを完全に排除する時，人は自分のすべての時間と精力をなすべきことに集中できるのである。

しかし重要な事柄を左右するしっかりした永続性のある決定を下しそこなった時に我々は常に大きな問題にぶつかる。ある精神病医はかつて患者に，「あなたは決心をする時に何か困難を感じますか」と聞いたことがある。するとその患者は「まあそうともそうでないとも言えますね」と答えたのである。このようなどちらとも言い切れない人間は弱い人間である。決心のできない人は自分の間違いの許容をはるかに超えて間違いをする人なのである。

最近，道徳的な問題で助けを求めてきた人に次のように質問された。「あなたは次の誘惑が起こった時，どうするつもりですか。」すると彼はこう答えた。「次の誘惑がどんなものかわからないのにどうして答えられるでしょうか。」もしこの人が後悔で苦しんでいる時にもしっかりした決心がつけられないようでは，悪の心によって再び欲望に火がついた時にどうなるのだろうか。たしかに我々は道徳，正直，誠実勤勉，宗教等の大切な問題に対してはっきり決心することを無視した時に，我々自身から重大な不利益をこうむるのである。このような失敗を前もって避けるための最も良い実例は，主が古代イスラエルをこの地上で最も偉大な国にしようとされた時に示されている。彼らはエジプトの束縛をまぬがれて3カ月たってから，シナイ山の前で野営をした。その時，神は彼らに十戒をお与えになった。それには彼らがいかなる状況下にあってもしてはならないことが含まれていた。というのも，神御自身でさえも，殺人者，うそつき盗賊，無神論者，姦淫をする者，そして安息日を破る者たちを偉大な国民にすることはおできにならなかったからである。

主はあきらかに，御自分のお与えになった十戒をできる限り人々の心に印象深いものとされた。このことから，ある会社で仕事を免除された技師長の話が思い起こされる。彼は社長になぜ自分が解雇されたのかを尋ねた。すると社長は，「あなたのおかげで大きな損害を受けたからですよ」と言った。そこで技師は，「でもあなたは私が特にしないように忠告したことを覚えて

いるはずです。」すると社長は，「そう，確かに私は君が私たちにしてはいけないと忠告したのは覚えている。しかし君が私たちに忠告した時，机をたたかなかったでしょう」と言ったのである。

ある考えについて強調する方法がしばしば考えそのものと同じ程重要な時がある。最近ラジオで，ある牧師が十戒はあまりにも時代遅れのものであるから，自分の教会ではこれ以後話さないつもりであると言っていた。彼はまた，その言葉は今日の我々の弱い感覚には厳しすぎるとも言っていた。この牧師は主が「戒める」とか「汝するなかれ」というような強い言葉ではなく，「〜するように勧める」「〜した方がよいと思う」というようなやわらかなひびきを持つ言葉を用いるべきだったと感じていたのである。しかしやわらかな言葉はしばしば弱い意味と，そのこと自体がすでに神聖への侵害を伴った，やわらかな姿勢を作り出すのである。

我々は現代の有害な許容というものが，いくつかの最も重大な罪の原因になっていることを知っている。しかし主は十戒に関してはいかなる許容も認めてはおられない。主はかまどから煙が上がるように煙の立ち登るその山の火の雲の中に降りてこられたのである。主は山が動き，人々が震えるような力を伴って来られたのである。それからその聖なる山の稲妻の光と雷のとどろく中で，神は人々に彼らの守るべき基本的な律法と彼らがしてはならないいくつかの事柄を伝えられた。

1．あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。
2．あなたは自分のために偶像を造ってはならない。
3．あなたは，あなたの神，主の名をみだりにとなえてはならない。
4．安息日を覚えて，これを聖とせよ。
5．あなたの父と母を敬え。
6．あなたは殺してはならない。
7．あなたは姦淫してはならない。
8．あなたは盗んではならない。
9．あなたは隣人について，偽証してはならない。
10．あなたは隣人の家をむさぼってはならない。

（出エジプト20：3—4，7—8，12—17）

これらのわずかな言葉は30秒もかからないで読むことができるし，さらにもし我々がこれらの言葉に従うならば，それらはすみやかに我々の地球を神の楽園に変えてしまうであろう。しかし，我々はそれらの重大な律法に従わないだけでなく，多くの人々は十戒が何であるかさえ知らないのである。1人の男がかつて友人に次のように言った。「もし君が十戒の中の1つを暗唱できたら5ドルあげよう。」彼の友人はこれに挑戦し，次のように言って自分の知識を示そうとした。「私は今ねむりにつきます。どうか主が私を守りたもうように。もし私が目ざめる前に死ぬようなことになるならどうか私を天国へつれて行って下さるように。」すると彼の友人はこう言った。「さあお金だよ。でも君がそんなにできるとは思わなかった。」

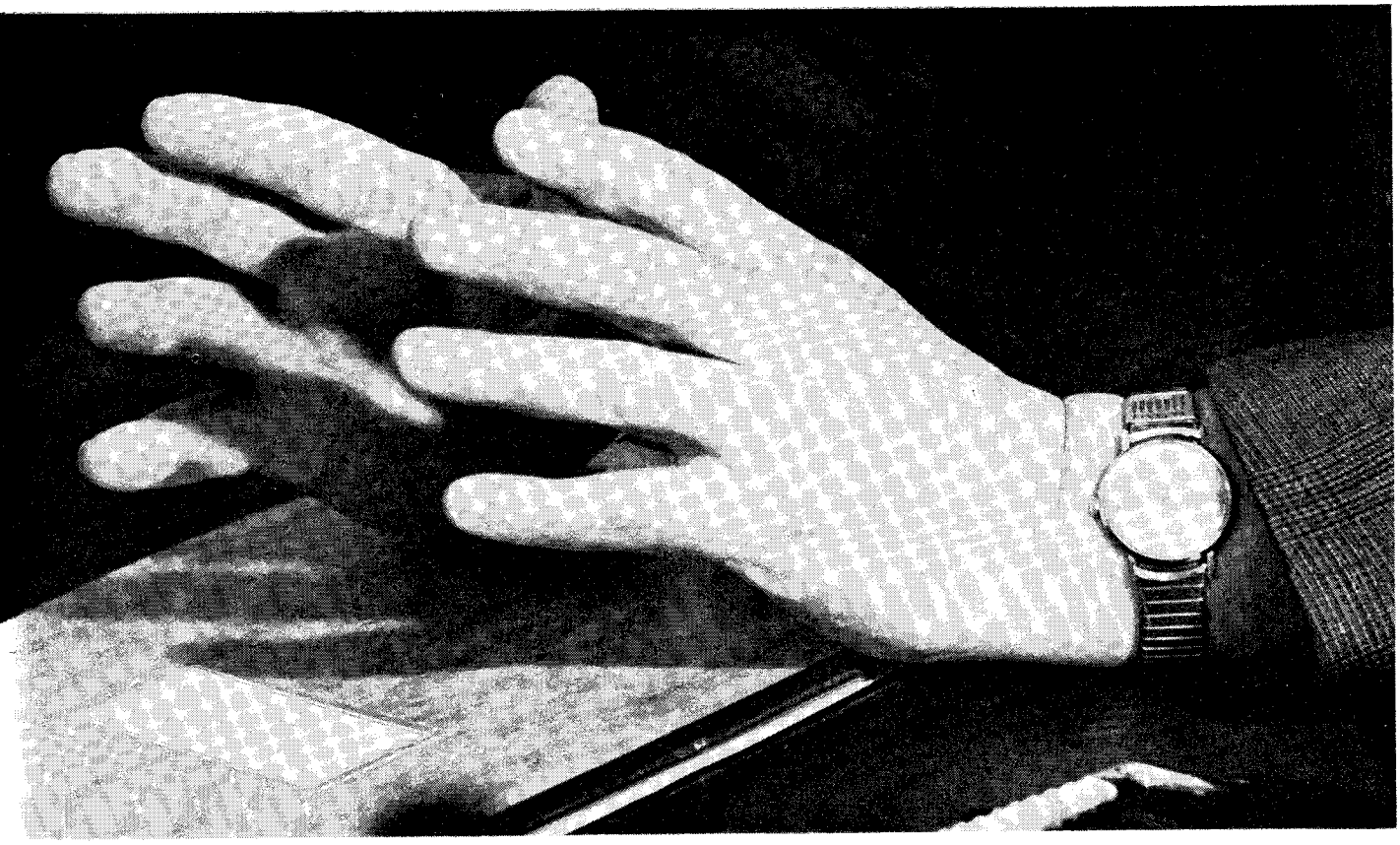
しかし，我々が十戒を破っているので，十戒もまた我々を破滅させているのである。我々はエゼキエルの予言を成就している。彼はこう予言している。「罪を犯した魂は必ず死ぬ。」（エゼキエル18：4）罪は非常に重大なことである。なぜなら，マルチン・ルターは，かつて次のように言っているからである。「1つの悪徳は10の美徳を圧倒してしまう。」

銀行家が1つの負債を同じ額の資産で帳消しにすることは可能かも知れない。しかし，それよりさらに重大な人生の会計計算においては，それはできない。なぜならいくつかの偉大な美徳はたった1つの悪徳によってだめにされてしまうからである。最近重要な任務を受ける3人の人について討議していた。そのうちの1人はこう言われた。「彼は熱心に働くし，自分の仕事も良く知っている。しかし彼は不正直だ。」2人目についてはこうだった。「彼は非常に正直で有能な人だ。しかし彼は働こうとしない。」3人目の人についてはこう言われた。「彼は非常に有能だし皆にも好かれている。しかし彼は不道徳だ。」賞賛はすばらしいものであっても評価が欠点に及ぶ時，人はきびしい注意を払うべきであろう。あなたは少しの不道徳を少しの勤勉さで帳消しにすることも，また少しの不正直を少しの能力で帳消しにすることも，そして少しの無神論を少しの善意で帳消しにすることもできないのである。

去年アメリカ合衆国では400万人以上の人々が50ドル以上の盗みの罪で逮捕された。それらの内，およそ77万7千人は自動車強盗であった。現在多くの人々は十戒を彼ら独自の解釈による新しい道徳に置きかえている。我々のまわりには数えきれない偽りがあり15分おきに殺人や自殺が起きている。これは律法の意味を次のように修正していることになる。すなわち，あなたは，だれかがあなたの邪魔をしているのでなければ殺してはならない。あなたは，あなたの配偶者がきらいでなければ姦淫してはならない。あなたは他により良い考えを持っていなければ私の他に他の神を持ってはならない。そしてある人々はすでに，神より与えられた責任観念を拒否するまでになってしまったのである。

最近ある若い女性が大衆雑誌の記者に十戒を破るのは悪いことかどうかという質問を受けた。すると彼女は「何が悪で何が善であるかをのべる資格はありません」と答えた。またある人々は悪であろうがなかろうがそんなことは関係ないというのである。しかし，我々の時代に，主はシナイ山から与えられた偉大な律法を再び確認され，強調されたのである。教義と聖約の59章で主はこう言われている。

「汝盗むなかれ。また姦淫を犯すなかれ，また，人を殺すなかれ。また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。」（教義と聖約59：6）しかし我々は，多くの「これに類すること」を行なって十戒を破っている。半信半疑の人や目的を達していない人々は，



最少限度の道徳と行ないを持つ弱い信仰に容易に陥りやすい。不従順と怠惰は，常に我々が担うことのできない重大な重荷をなげおろすのである。

私は十戒が与えられた時にシナイ山にはいなかったが，それでも私はそこにいた人々と全く同じように，神に従い，我々の父母をうやまうことは正しいということを知っている。また私は安息日を神聖に保つ人々は，そうしない人々とは違った人々であることを知っている。私はシナイにいた人々が知っていたと同じように，神聖を汚すこと，盗むこと，むさぼること，偽証すること，殺すこと，姦淫をすること，そしてこれらのいずれかに類することをするのは良くないことを知っている。

マラキを通じて主は言っておられる。「人は神のものを盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは，わたしの物を盗んでいる。あなたがたは，また『どうしてわれわれは，あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と，ささげ物をもってである。あなたがたは，のろいをもって，のろわれる。あなたがたすべての国民は，わたしの物を盗んでいるからである。」（マラキ３：８―９）

もし人々が十分の一を払わず，我々もそれと同じことをすれば，我々も神から盗んでいるのである。そして神から盗む時，我々は我々自身からも盗んでいるのである。自らの受け継ぎを破滅させようとしているのでなければ，我々は，日の光栄の王国へと導いてくれるまっすぐで狭い道の境界にそって強い防御壁を築くべきである。我々は正しいことと悪いこととの間にはっきりと黄色の線を引き，歩くことを禁止された行き止まりの通りにはその標示をしておくべきである。

神はいかなる罪も大目にみることはないと，またいかなる罪も御自分の前では許されたことがないと言われた。

そして我々が正しくない行ないを当然のことのように思う時，悪い手本を示す時，また悪いことを行なう時に，我々は神の目的を阻止しているのである。我々が神の子であることを主張しながら，孤児や罪人やひきょう者，また弱い人間のようにふるまう時，我々は「あなたは偽証してはならない」という，あの偉大な戒めを犯しているのである。

我々の生得権，知性，誓約および責任から，我々はみな神の特別な証人であり，我々にはいくつかの重大なすべき事柄があるのである。神は我々の永遠の御父である。我々はみな，イエスが「御父のみ業」と言われたあのすべての家族企業の中の最も偉大な企業の代表者なのである。それは，完全無欠さ，人格，そして永遠の生命を神の子供たちの生活の中に築き上げることである。そして我々がしばしばなすべきことは，「みたま」の力によりシナイ山へ再び行って立ち，神御自身が禁じられたことを調べてみることである。そして少しばかりのテーブルをたたく強調は，いかなる状況下にあってもしてはならないことを取り除くよう堅い決心をさせてくれる。我々がそうするのを神が助けたもうように。イエス・キリストのみ名によりへりくだって祈り奉る。アーメン。

「我らが目を天に向けよ」

十二使徒評議員会補助
ジョン・H・バンデンバーグ

ヨブ記を読むと，主はヨブに次のように言っておられる。

「あなたは腰に帯して，男らしくせよ。わたしはあなたに尋ねる，わたしに答えよ。

わたしが地の基をすえた時，どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。

あなたがもし知っているなら，だれがその度量を定めたか。だれが測りなわを地の上に張ったか。

その土台は何の上に置かれたか。その隅の石はだれがすえたか。

かの時には明けの星は相共に歌い神の子たちはみな喜び呼ばわった。」（ヨブ38：3～7）

このわずかな短い聖句は，神の子である我々が神と共に前世にあって，神から人類が住むこの地球の創造の計画を述べられた時，喜びの声をあげたことをほのめかしていると信じる。その計画が提出された時，我々は計画に賛成し，永遠の存在にあって進歩する特権を受け入れたのだと信じている。

ウイリアム・ワーズワース[1]が「不死を暗示するうた」を霊感を受けて書いた時，人生の神秘さを大いに考えさせられたに違いない。その詩の中で彼は次のように述べている。

「われ等の誕生は眠りと忘却にすぎない。

われらとともに昇る魂，われらの生涯の星は

どこかで没したのであり

遠い彼方から来たのだ。

完全に忘却し去ったのでなく

裸形のままでなく

栄光の雲をもすそにひいて，

われらはふるさとの神のみもとより来る。

幼時は天国がわれらの身辺にある

育ち行く少年に

牢獄の影がとざしはじめる。

しかし彼は光を見，その源を見る，

彼はそれを己れの喜びのうちに見る。

日毎に東から旅しゆかねばならぬ青年も，

いまだに自然の司祭であって

その行くてにはすばらしい幻がともなう。

遂に大人になればその光もうすれ行き，

平年の光に消えてゆくのだ。

大地はその膝を己れの喜びで充たし，

彼女なりのあこがれを持つ。

母親に似た心と

それにふさわしい目的をいだいて

このつつましやかな養い親は

自分の養い子であり，同宿者たる人間に

かつて身につけていた栄光を忘れさせ

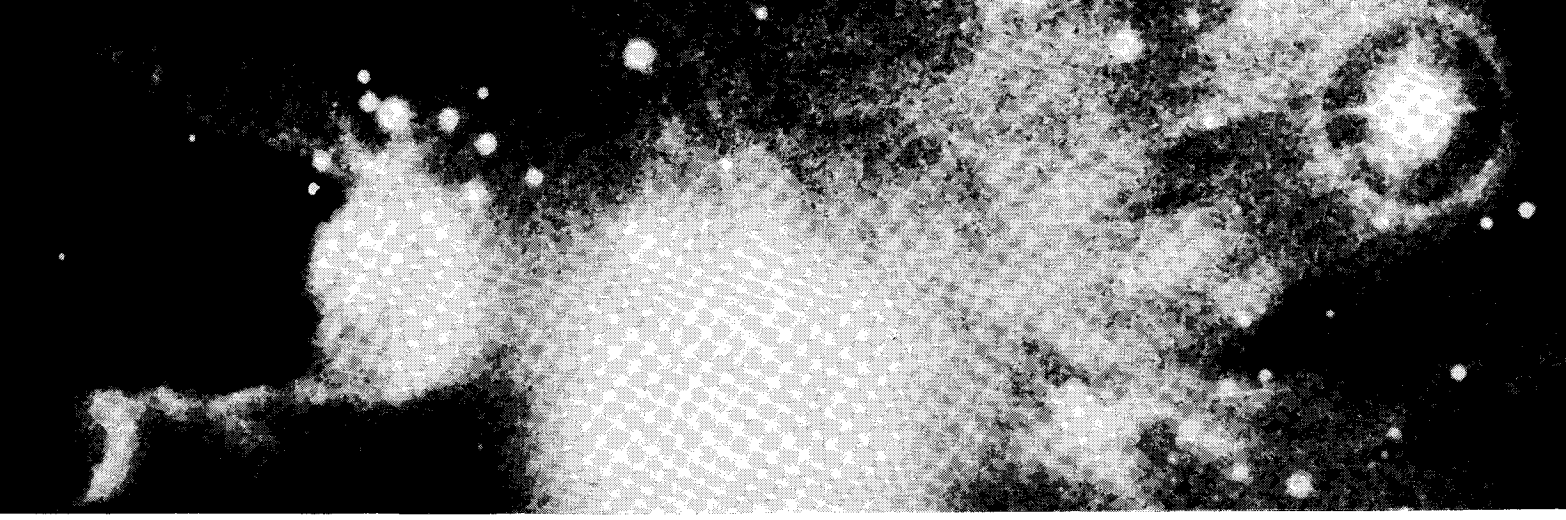
もといた王宮を忘れさせようと努める。

（前川俊一訳）

ヘンリー・ワード・ビーチャー[2]は言っている。「神は，その人が生命を受け入れるか否か誰にも尋ねはしない。人にはそれを選ぶ余地はなく，人は生命をとらねばならない。ただそれをいかにとるかがあるだけだ。」私はこれに補足したい。我々がこの世に来るべく選択したのであって，神は子供らを強制されはしなかったと。

今我々が選択することは，我々の生涯をどのように送るかということである。この生涯を通じ，我々が自分の置かれる立場に反応できるよう我々には選択する意志がある。人の交わりと同様に，地球のさまざまな要素や資源で取り囲まれている我々は，それらを選択しなければならない。予言者の言葉から無神論者の言葉まで，次のような疑問を投げかけている。「我々は自分の境遇からどれ程抜け出せるだろうか。向上するだろうかそれとも堕落するだろうか。生涯の目的を果たすだろうか。それとも生涯を浪費してしまうだろうか。」

生命を受けることは，善と悪との間にあって戦うことであると世に向かって語らねばならない。もちろん，我々に善悪のようなものはないのだと信じこませようとする人々がいる。だがこの哲学は熱さと冷めたさ，明るみと暗やみ，重力と無重力，その他多くの反対のものが存在する自然の律法に反するのである。よく見えるように我々の目を用い，よく聞こえるように我々の耳を用い，よく考えて，見聞きするあらゆるものの中から，くだらないものをふるいにかけるのに，自分で決心できるよう，我々の心を用いる必要がある。そうすることにより，聖なるみたまから確信が与えられるまま，自分の心に感ずるものが真理であると知ることができるであろう。



聖なるみたまの影響を受けるには，神への信仰がなくてはならない。満ち足りたしあわせな生涯の基盤は神を信ずることにある。この信仰なくしては生活を浪費してしまう。神が存在することの証拠は宇宙に満ちている。

アブラハム・リンカーンは言っている。「地の上を眺め下ろして，人が無神論者になるのはいかにもわかる。だが天を仰ぎ見て，神がいないとどうして人が言えるのか私にはわからない」リンカーンがこう語った時に，彼は何を意味していたのか，私は理解できるように思う。

数年前，「父と息子の旅」というプログラムがあって招待をうけ，私はそれに参加した。参加者は，アイダホ山中の湖へ馬に乗って旅した。つらい行程だったが楽しい1日を過ごした。その日，夜もふけて，キャンプ・ファイヤーもすっかり燃えつき，皆が見渡す限りの空の下で落ちついた頃，私はあお向けになって空を見上げた。月のない夜だったが，こんなに美しい光景を私は見たことがなかった。恒星や惑星が光輝いて空は生きているかのようであった。広大な宇宙に比べて，自分はなんと小さなことだろうか。神の栄光を示すその手細工，地球や天やすべてのものが，1つの目的すなわち神の子供である人類のために造られたことを思いめぐらしていると，感謝の念がわきたってきた。この経験は今もって忘れ得ない。その壮大さに私の心は圧倒されたのである。

かつて読んだことのある1つの出来事が心に浮かんだので話したい。それは自然主義者[3]のウイリアム・ビーブがもう1人の自然主義者セオドア・ルーズベルトをたずねた時のことである。ウイリアム・ビーブはその訪問を次のように描写している。「毎晩サガモア・ヒルのルーズベルトの家で歓談したあと，我々2人は芝生に出て空を見上げては，どちらが先にペガサス星座の左手下の角のかなたに，おぼろげに弱い光を放っている1点を見つけられるかやりあったものである。そしてどちらか1人がこう言った。

『あれは渦巻星雲のアンドロメダ星座だ。あれは我々の銀河系と同じ大きさをしている。1億もある銀河系の一つであり，75万光年も前のものだ。千億もの太陽からなっていて，それは皆我々の太陽より大きいのだ。』と。」ややあってビーブは，ルーズベルトがにが笑いして，「やれやれ，我々は本当にちっぽけだと思うよ。休もう」と言ったと伝えている。

モーセが次のように語った時どのように感じたか想像がつくだろうか「さてこれを以てわれは知る，人は物の数にもあらざるを。このことを嘗てわれ考えたることもなかりき」と。これはモーセが「いと高き山の中に捉えられ行きしが……，神と顔を合わせて相見神と相語りし」後に語った言葉であり（モーセ1：10，1—2），モーセの書第1章には次のように述べてある。「モーセは目をあげて彼の創られしこの世を見たり。モーセこの世と，この世の極と，創らるるすべての人の子らと嘗て創られしすべての人の子らとを見て，これらのことをいたく驚き怪しめり。」（モーセ1：8）

するとサタンが現われ，モーセを誘惑し大声で命じたのである。われこそは独子なり，「われを礼拝せよ」と。

「この時モーセは極めて怖れ出でけるが，怖れ出でたる時に地獄の惨苦を目にしたり。されども，神を呼びし故に力を与えられて命じ言いけるは，サタンよ，退け。この唯一の神のみをわれ礼拝せんと欲す，こは栄光の神にましますなり，と。

今や，サタンおののき出でて地は揺れ動きぬ。然るにモーセ力を与えられ神を呼びて言いけるは，独子の御名によりて言う，サタンよ退け，と。

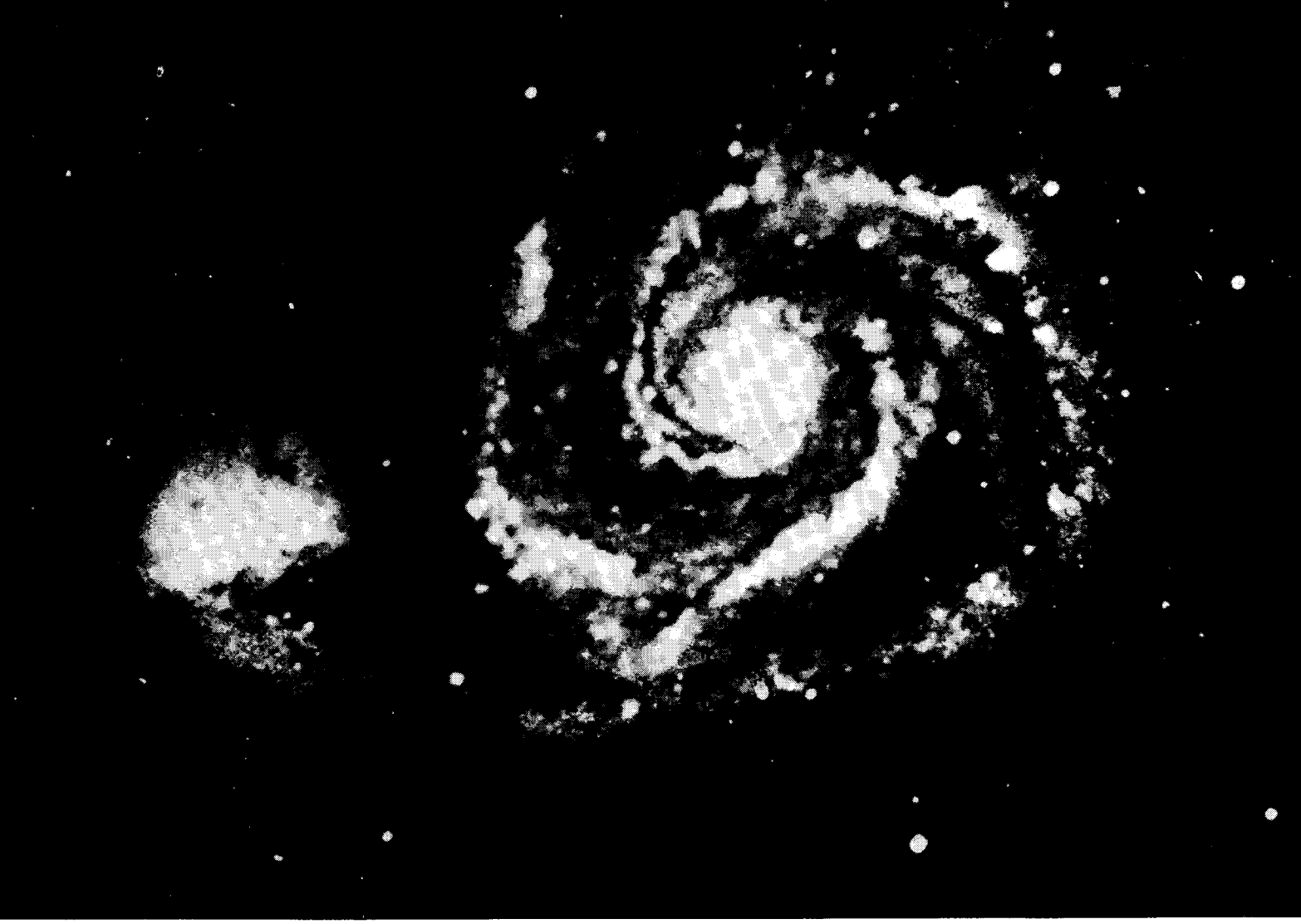
サタン大声を挙げて叫び，涙を流し，泣きわめき，歯がみして誠にモーセの前より立ち去り行き……。

サタン，モーセの前より立ち去りたりし時，モーセその目を天に向け，父と子の証をなしたもう聖霊に満されて，

神の御名を呼び求めしに，再び神の栄光を見たりき。そは神の栄光彼の上に在りたればなり」と。

モーセはまたこの世とこの世に住む人々を見，多くの土地を見て次のように主に言った。「モーセ神を呼びて言いけるは，願わくは語りたまえ。何故にこれらのことかくのごときや。神は何をもってこれらのものを造りたまいしや，と。

見よ，主の栄光モーセの上にありければ，モーセ神の御前に立ちて神と顔を合せて物言いたり。主なる神モーセに宣いけるは，われ自らの目的ありてこれらのものを造りたり。……



われわが力の言によりてこれらのものを創りたり。……

われは，無数の世界を創りたり。而して，またこれらはわれ自らの目的ありて造りしなり。而して，わが子によりてこれらの世界を創りたり。わが子とは，わが生みたる独子のことなり。……

されど，この世とこの世に住める人々の話のみを汝にして聞かす。見よ，わが力の言によりて過ぎ行ける多くの世界あり。また今ある世界多くあり。これらは人にとりて数限りなし。されど，よろずのものはわれにとりて数えらる。そはよろずのものはわがものにして，われこれを知ればなり。……

モーセ主に申して言いけるは，神よ僕を憐みたまいてこの世とこの世に住める人々と，また諸天のことを語りたまえ，さらば僕の心足りぬべし，と。

主なる神モーセに宣いけるは，諸々の天は数多し，人にとりては数知れず，されどわれにとりては数えられたり，諸々の天はわがものなればなり。

一つの世界とそれにつける天の過ぎゆく時は，誠に別の世界を生ず。かくしてわが業にもまたわが言にも終りなし。

見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」。（モーセ1：19—22，24—25，30—33，35—39）

この言葉はなんと強く響くことだろうか。神のあらゆる創造物は一つの目的，すなわち神の子供らである我々に不死不滅と永遠の生命とをもたらすために造られたのである。

モーセは神と顔を合わせて相語り，神のみわざをながめて，直接に創造とその目的の壮大さに気づいたのである。このような経験をする者はごくまれである。だがほかの人々は神の手になる創造物を通して神の壮厳さをみる。アブラハム・リンカーンは，人が天を仰ぎ見て，神がいないとどうして言えるのかわからないとその信念の程を語った。私は，アイダホ州ベアレイク郡の山中で，あお向けに横たわり，神の手になる作品を見上げた時，忘れ得ない証を得た。だれもがこのような経験を持つに違いない。このような言葉がある，「我々は，目を天に向けねばならぬ」。

主がモーセに語られて，この地球の創造と，いかに人をお造りになったかを話され，神の子供らに善悪をわきまえるよう教え，また次の事柄を教えるようモーセにお命じになった。「この故に，汝らの子らに教えよ，すなわちすべての人は何所にあるもことごとく悔い改めざるべからず。然らざれば彼ら決して神の王国を嗣ぐこと能わず。汚れたる者は王国に住むこと能わず…

故にわれ汝に一つの誡命を与えてこれらの事を汝らの子らに自由に教えしむ。曰く，

罪によりて堕落は来れり。その堕落によりて死は来れり。汝ら水と，血とわが創りし霊とによりてこの世に生れたれば，塵よりして生ける『霊の結合体』になりぬ。されば，誠に汝ら水と『みたま』とによりて再び生れ，わが生みし独子の血によりて清められて天の王国に入らざるべからず。かくして汝らすべての罪より清められ，この世に於て永遠の生命の言を受け，来るべき世に於て永遠の生命，まことに不死不滅の栄光を受くるなり。

そは汝ら水によりて誡命を守り，『みたま』によりて義とせられ，血によりて聖めらるる故なり。

この故に，天の記録，慰め主，不死の栄光に属く平和なること，すべてのものの真理，すべてのものを生かしすべてのものに生命を与うるもの，また智恵と憐みと真理と正義と審判とによりてすべてのものを知りすべての権能を有するものを汝らの中に宿らしむ。

見よ，今われ汝に告ぐ，こはこれより『時の絶頂』に来るべきわが生みし独子の血によりて，すべての人に来らしむる救いの計画なり」。(モーセ6：57—62)

このように，この世の創造，救いの計画，すべてが我々のためにある。どの両親もそのことを知らねばならない。そうすれば，マミー・ジェーン・コールが「子供の訴え」と題する詩の中で，非常に適切にうたっているように，子供らの望みにこたえてやることができるであろう。

「私は子供です。
私の来るのを
すべての世界が待っています。
私がどのようになるか
すべての地球が興味をもって
みつめています。
文明は定まりません。
私がきょうあるように
あすの世界があるからです。
私は子供です。
私はあなたの世界へ
やってきました。
なんにも知らずに，
なぜやってきたのか，
どうしてやってきたのか，
私には不思議で
興味があるのです。

私は子供です。
私の運命をあなたは
自分の手のうちに握っています
私が成功するも，失敗するも
あなたがほとんど決めてしまうのです。
お願いです。しあわせにするものを与えて下さい。
どうぞ，私を導いて下さい，
私が世界を祝福できるように」。

「お願いです。しあわせにするものを与えて下さい。」その子供の訴えにこたえる父母の責任はなんと素晴らしいものではなかろうか。まず心に浮かぶのは，我々は持たざるものを与えることはできないということである。我々は両親として，しあわせにするものを持ちあわせているだろうか。その根幹になるものは，モーセに啓示された神の計画についての知識であり，我々はその計画に従って生活しようと試みているだろうか。

あなたは，自分が幸福であると思っているだろうか。ある時，1人の若者が自分の生活に幸福をもたらすと考えたことを全部書き出した。その若者は富，名声，栄誉，成功，そして愛といったものを含めていた。それは非常に長いリストで，その若者はこれで全部網羅していると考えた。だが年上の友人に誇らしげにそれを見せた時，その友人は次のように言った。「これらの中で最も大切なものを書き忘れているね。心の平和だよ。」その時この若者は，友人の言ったことがいかに正しいかを理解できなかった。

心の平和，澄んだ良心はデビド・O・マッケイ大管長が，しあわせの第一条件としてよく話されたものである。マッケイ大管長は言っておられる。「その日1日最善を尽くし，だれをも怒らせず，だれをも傷つけず，澄んだ良心をもって夜横になることができたら，それはすばらしいことである。……以上のことや数えきれない程の他の徳，条件がイエス・キリストの福音の中にすべて包まれている。」(「人はおのれのために知る」458ページ)

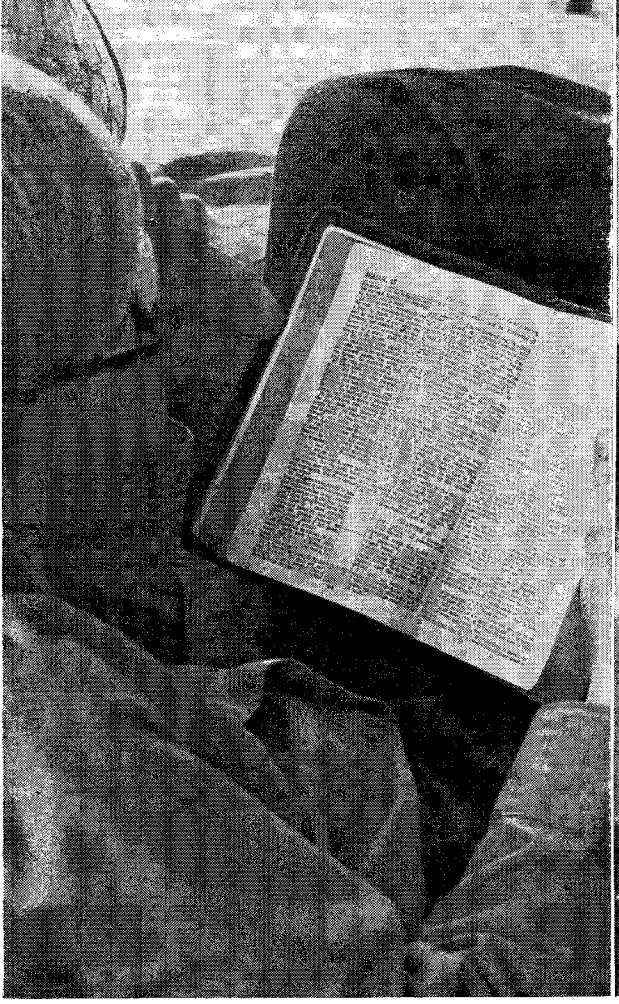
しあわせになる他のいくつかの条件として，次のような能力があげられる。それは，あなたが真実だと思うことに従う力，あなたの欲望や感情を抑制する力，あなた自身のことを決定する力，他人をうらやまない力，祈りによって神と交わることができ，束縛から自由であり，あなた自身を支配できる力，などである。

世界にとって祝福となるよう私を導いて下さいという，両親に対する子供の2番目の訴えは，しあわせにとってかけがえのないものである。なぜならそれは同胞を助けるために自分を捨てて奉仕するという個人の行動を求めるものだからである。

我々各自は，この世が問題で悩まされていることを承知しながら，問題の一部となるか解答を与える一部となるかのいずれかであるという言葉を聞いたことがあるであろう。もし，あなたが解答を与える側であれば，世界にとっては祝福となり，あなたの足跡に従って子供を導くことができる。世にとって祝福となる人々は次のような事柄を試みるであろう。(1)助けの手をのべ，(2)他人の権利を犯さず，(3)神の律法とその土地の法律を守り，(4)正義のために立ち上って悪と戦い，(5)他人と真理を分けあい，神の賜物のうち最も大いなるものは救いの計画であることをよく覚えるよう試みるであろう。

この道にそって我々自身の生活と子供らを導けるよう，心からイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

(1)ウイリアム・ワーズワース(1770—1850) 英国の詩人。
(2)ヘンリー・ワード・ビーチャー(1813—1887) アメリカのプロテスタントの牧師，編集者。
(3)ウイリアム・ビーブ(1877—1962) アメリカの自然主義者，作家。



今年の4月の総大会のあと，誠実で敬虔なキリスト教徒である1人の紳士が次のようなことを書いた。「神があなたがたと，あなたがたの素晴らしい仕事を祝福して下さるように。我々はサタンを排斥することに失敗しているが，あなたがたの教会はサタンを排斥できるようにと願っている。」

不幸にも，我々は自らの教会，一層適切な言葉で言えば主の教会からサタンを完全に追い払ってはいない。我々が皆正しい生活によって，自身をサタンとその手下の力から守っているとは言えない。

私は，末日聖徒イエス・キリスト教会が，この人生にあって，霊的で，立派で，価値ある，良きことすべてにとって，最後の避け所となることを心から証する。

この言明が真実であるとの証明は，我々全教会員が模範と良きわざを示すことにかかっている。

主は末の日にサタンが自分の領域の上に力を振うであろうと警告しておられる。（教義と聖約1：35参照）今日殺人や違法行為，道徳的退廃の増大が見られるように，主が戒められた状態がはびこっている。かつて聖なるものと称されたあらゆる標準が，不可知論者，無神論者，破壊者，過激派による不敬の念におされて崩壊しつつある。悪を企てる人々は，麻薬やアルコール，売春，ポルノ（猥せつな文学や映画等）を商売にし，また人生の道徳的，倫理的，霊的価値を破壊するにもかかわらず，不正直なたくらみを企て富を得ている。

サタンを縛りつけておくことのできる唯一の方法は，人がサタンの誘惑を振り切って悪を打ち捨て，主の前に正しく注意して歩むことにある。（Ⅰテモテ6：5—7参照）

サタンとその手先は，絶えず我々の霊的守りの弱い個所をうかがっており弱さを見出すと，あらゆる力と計略を用いてその弱さを攻めたて，我々の霊に浸入して破壊しようとする。

確かに，もし人々の罪が増し加わり続け，この世に悪が満ちるなら，神の大いなるさばきは地上の悪しき人々に注がれるであろう。我々が神のみ守りを望める唯一の方法は，いたるところの人々の心に正義と謙遜さを打ち建てることにある。主は聖徒らを支配し，その真中にありてこれを統治せんと約束しておられる。（教義と聖約1：36参照）聖徒としての生活を送るには，真の勇気と目的が必要である。

神のみ言葉をもち，それを理解するなら，教会員はだれであっても，決して悪の誘惑に打ち負かされることはない。我々は皆，正しく教えられているのだが，ただ教えられた通り生活しないのである。神の戒めを守るのに失敗することから，いかに多くの人々が，生活や家庭の中へ，神殿，聖餐会，その他の教会の集会へ悪を伴ってきていることだろうか。我々の前には聖典があり生涯を通じ我々のあらゆる活動を

世を救う責任

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・スティプレー長老

教え導いてくれる神の生ける予言者がいる。主は我々が世の人と異なるように期待しておられる。主にとって我々は特別な民である。そこで我々は行ないや振舞いで神の戒めに忠実であると証拠立てなければならない。

しばらく前のこと，教会員ではないが，全米で著名なあるスカウトの指導者がソルトレーク市を訪れ，教会のスカウトプログラム関係者たちと会った。彼は，教会が少年たちの利益のためにスカウトプログラムを使用しているその素晴らしい方法を論評して，次のように語った。「……私はこの教会が世界を救うだろうと信じる。……これは大胆な言明かもしれない……がしかし，そのことは真実であり，私はあなたがたが自分の責任をいつも心に留められるようにと望んでいる。」

私はこの言葉を引用するのに，この友人にあてて許しを求める手紙を書いた。この友人は私の願いを聞き入れてくれ次のように書いてきた。「手紙の中であなたがふれられた私の言葉に対し，私の心は今も変わりがないと喜んで申し上げたい。実際，この言葉が適切と思われるならどこででもお使いになるように。私はそのことを光栄に思います。あなたやあなたの同僚たちは，偉大な仕事をなしています。それを続けて下さい。」

この友人は，教会と教会員に対し，なんと素晴らしいそして高邁な見解を持っていることだろうか。

私は，もし教会員が神の聖徒としてあるべき生活を送るなら，この末日聖徒イエス・キリスト教会が世界を救えると信じる。我々が福音の原則を生活に取り入れる時，確かにだれかが我々の行為を見守り，我々について，また教会の霊的価値について，好意的な見方を広めてくれるのである。福音に対する忠実さが，我々が教える教義に意義をもたらすのである。救い主はこのことを強調して次のように言っておられる。「あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」（マタイ５：16）

世を救うとは大きな責任である。この責任は単に教会の指導者にのみ課せられているものではなく，会員１人１人にも同様に課せられている。キリストのまことの福音はこの世の希望である。これこそ，民族と民族，国民と国民を結びつけ，今日人類を分けている障壁を打ちこわす何よりの計画である。人類が，神とその御子である救い主を忘れては，平和で安全に暮らすことができないと歴史は証明している。個人も，民族も，神の戒めに逆らって，神と和合することはできない。今日，世界の多くの地で，礼儀や，神と人の律法への忠実さなど，今まで確立されてきた秩序に対し，むほんが公然と行なわれている。

教会の会員として，世を救うことに向かって我々は何をしているだろうか。まず第一に，戒めを守って生活しなければならない。自分と他人に対し正直であらねばならない。道徳的に清く，二重の道徳標準をもって生活してはならない。二重人格であってはならない。すなわち，日曜日の自分と，他の週日６日間の自分とがあってはならない。

ある最近の改宗者が手紙をくれた。その中でこの改宗者は，モルモンの宗教が，あたかも「さわやかな空気を吸う」のに似ていることを発見したと述べ，以前の教会を去ってこの末日聖徒イエス・キリスト教会に加わった理由を８つあげていた。私はその８つの理由をあげ，各項目に簡単に注釈を加えたいと思う。

１．健全な家族生活。友人，仲間，学校，職業，社会生活よりも，家庭は人の態度，目的を決定するのに一層影響がある。青年にとっては初めての重要な訓練の場である。理想的な末日聖徒の家庭とは，信頼，平和，連帯関係や幸福が維持されて高い標準が見られる家庭である。

２．自立心と責任。すべての会員は生まれ落ちるときから死ぬまで，自立心と責任を教えられる。永遠の生命を得るのは個人の責任によるのである。

３．道徳的・肉体的修練。使徒パウロはガラテヤの聖徒たちに次のように勧めた。「肉の働きは明白である。すなわち，不品行，汚れ，好色，…ねたみ，泥酔，…しかし御霊の実は，愛，

喜び，平和，寛容，慈愛，善意，忠実である。」（ガラテヤ５：19，21―22）

デビド・O・マッケイ大管長は，精神を統御するには，自己統御，自己訓練，自制がなければならないと常に語った。

ジョセフ・F・スミス大管長は言った。「人は誰でもおのれを支配できない限り安全ではない。欲望や感情を統御できない程無慈悲で恐ろしい暴君はない。」（福音の教義）

救い主は警告しておられる。「誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが，肉体が弱いのである。」（マタイ26：41）

４．両親に対する子供の従順さ。使徒パウロは，エペソ人の若者に次のように勧めた。「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。『あなたの父と母とを敬え。』これが第一の戒めであって，次の約束がそれについている，『そうすれば，あなたは幸福になり，地上でながく生きながらえるであろう』（エペソ６：１―３）

またヘブルの聖徒らにキリストのことを次のように語った。「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学ばれた。」（ヘブル５：８）

天父に対する従順さは地上の両親に対するそれよりもはるか高いものを求められる。従順は，天父の子供としての我々会員に天父の律法と戒めに従順であるよう，その義務を負わせる。

５．すべてのことに完全であり，卓越しようと努める。福音は聖徒を完全にするためのものである。救い主は勧めておられる。「それだから，あなたがたの天の父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ５：48）

イエスは弟子たちに次のように尋ねられた。「…汝らはいかなる人物にてあるべきか…」イエスは自分でこれに答えられ，「…まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず」と言われた。（Ⅲニーファイ27：27）イエスは全く完全な生活をされ，イエスに従う者たちに「われにならいて，汝らの見たるわれの行いを汝らもせよ」（Ⅱニーファイ31：12）と励ましておられる。

６．純潔と結婚の誓約の遵守。新しいミスアメリカのラウラ・リー・シェーファーが初の公式記者会見で，質問に対し勇気ある回答をした。その内容を読むと励まされるものがある。彼女はこう言っている。「私は婚前交渉に反対で，それが正しいとは信じていません。マリファナを用いることは重度の麻薬常用者になると感じていますし，また堕胎は違法であると感じています。」彼女はさらに続けた。「私は典型的な女子学生ではありません。でも私の同輩も，大多数の若い人たちも私と同じように感じていると思います。」彼女の標準はアメリカの若者にとってなんとすぐれた模範であろうか。

不貞は結婚の誓約を冒瀆するものであり，きわめてしばしば離婚をもたらす結果となる。離婚は子供を除々にそこない，よく麻薬使用や不品行，その他の罪ある行ないに走らせ，教会の集会や活動への参加を不活発にする。もし，すべての夫婦が結婚の誓約を誠実に守るなら，今日の世界の問題や悲哀

は少なくなるであろう。もし両親が愛と信頼と永遠の家族の目標を模範によって示すなら，子供たちは，自然に結婚を神聖で確実なものと期待するようになる。

7．教育での高い標準。我々は次のように教えられている。「神の栄光は英智なり。すなわち光明と真理なり。」（教義と聖約93：36）主は勧めておられる。「そは，必ずしもすべての人信仰なきが故に，汝ら努めて求め，互いに智恵ある言葉を教うべし。然り，汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」（教義と聖約88：118）

また次のように教えておられる。「およそ，われらのこの世に於て達する英智の一切は，何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。さればもしある人ありて，精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れ

たる知識と英智とを得ば，未来の世に於てそれだけ利を得べし。」（教義と聖約 130：18—19）

8．「最後になったがなお最小でないものは，常識である」とこの改宗者は語っている。「常識は詭弁をろうすることもなく，特別な知識を持ち合わせなくとも，ある人の能力を示してくれる。常識は判断するのに，健全ですぐれた，実際的な意識なのである。だれでもがほどよい常識をち持合わせている。ただその常識を用いるかどうかが問題なのであって，物事を性急に果たそうとする代わりに，じっくりと常識をもって考えることである。

以上８つの意味深長で大切な理由は我々皆が心に留め，個人的生活の中で従うべき良き要点を示している。

福音のみが，道徳的霊的行為の規範にそって生活する人々を励ましてくれる。我々が，この世の生き方を捨て，神の戒めを忠実に守ろうとする時に，犠牲で失うものは何もない。このように，この世の生涯でふさわしくあることは，この世を去った後天父の日の栄光の住居に入る資格が与えられることである。これ以上に栄えある満足すべき報いがあるだろうか。

予言者リーハイは，エルサレムの滅亡を警告されて，自分の家族と幾人かを伴い，この聖なる都を立ち去った。荒野で３日旅をした後，紅海に流れ注いでいる１つの川のほとりにある谷で野宿した。（Ｉニーファイ２：６参照）道々，リーハイは２人の年上のむすこに逆らわれて大きな悩みを経験した。リーハイは流れゆく川のことを考えながら強く感じて，長男のレーマンに向い次のように言った。「この川がたえず流れて海に入るように，汝もたえ間なくあらゆる義しさの海に流れこんでくれるように。」（Ｉニーファイ２：９）

多くの川が，山腹からほとばしり出る清らかで水晶のように透明な水の源泉にその源を発している。水が海に向け流れてゆくにしたがって，支流が本流に交わってゆく。この支流のあるものは，清らかな源で始まった本流を汚濁し汚染してしまう。やがてその川が海に達するまでには，汚染が全体の流れをおおってしまう。

我らの人生もこの急流にいかによく表現されることだろうか。主はあらゆる人の霊は，初めには罪のないものであったこと，また神が人を堕落から贖って下さったので，人々は再び幼児の状態になり，神の前に罪のない者とされることを啓示された。（教義と聖約93：38参照）この言葉を心に留めるなら，なぜ救い主が次のように語られたかを理解できるのである。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう。」（マタイ18：３）

子供が責任をとれる年令に達する時に主は警告しておられる。「かの悪魔来りて，不従順により，また先祖の言伝えによりて人の子らより光明と真理を取り去りぬ。」（教義と聖約93：39）

この啓示から，この世に生まれたばかりの時は，すべての人が神のみ前に罪のない者であり，あたかも川の流れの源のように清く，純粋であることを学ぶ。汚れた支流が本流に注ぐように，我々の生活も害悪という支流が流れこむのを許すなら，汚されてしまう。我々はこれら悪の支流に関心を寄せ，我々の身をそれから守らねばならない。罪悪は決して幸福を生じたことはなく（アルマ41：10を参照のこと），その反対に人を弱めるものである。罪悪は良心を破壊し，遂には人の霊的生活を台無しにしてしまう。両親から正しく教えられず，正しく訓練されない子供は，悪の誘惑に負けやすく，この世でもまた永遠にわたっても，その生涯を汚し，滅ぼしてしまう。汚れのあるものは神のみ前に立ち帰ることができない。人は悪の道に従って勝利を収めることはできない。このことを早くから学べば学ぶ程，我々の生涯は報われ，実りあるものとなる。

我々皆が，神の戒めを固く，しっかりと，不動の気持で守れるよう，またかくして教会をサタンの手から守れるように心から祈るものである。

この方向に向かって努力すると表明する時に，教えることに対し価値ある模範であらねばならない。友人や親交ある人々と福音の知識を分けあい，我々が従事している業の神聖さを証することに熱心に携わろうではないか。神がそのことに祝福を賜わるようイエス・キリストのみ名によって祈り奉る。アーメン。

ハワイ神殿訪問に参加して

第6回　ハワイ神殿訪問

東京ステーキ部第2ワード部　小林重次

ハワイ神殿訪問に参加し，主の導きと祝福を感ずることができましたことを心から感謝しております。

私が神殿に行きたいと強く感じたのは，神殿訪問が計画されて間もなくの頃でした。これまでにどれほど多くの聖徒たちが神殿にもうで，涙を浮かべながら主への証を述べたことでしょう。家庭の問題，仕事の問題など多くの苦しみを背負いながらも彼らが神殿に入る姿を見，私は今年は必ず参加しようと決心しました。もし今年参加できなければ来年はもっとむずかしくなると思ったからです。

私は家族に福音の光を与えたいと思うことで悩みました。教会が近くになく，まだ福音を進んで迎えることができない家族に何か影響を与えたい，バプテスマを受けてから毎日このことを考えました。伝道に出たいことを話した時に，人のために尽くすことができるのであればやりなさいと言ってくれた父母。それにもかかわらず多くの問題のために専任宣教師として伝道に出ることを断念した私。伝道の意味について深く考え悩んだのはこの時でした。私にとっての伝道とは何か，そのために私は何をすることができるのか。断食を続け毎日主に祈りました。最初主に方法を願い求めている自分に気づき，これではいけないと思い，よく考えて自分で方法を見出し，主にそれが正しいかどうかを問うようにしました。そんなある日，祈りの際中に体の中に強く燃えるものを感ずることができました。それは福音についての証を強くもたなければならないということでした。でもそれには多くの方法があります。神殿訪問のことを耳にしたのはその時でした。ぜひ参加したい，そこで得られるすべてを自分のものにしたい，そう思いました。しかし具体的に何を得ようとしているのかを自分自身で見出すことができたのは，実際に神殿の儀式を受けた時でした。私の心にふとモルモン経の中でニーファイが語った「私は主が命じたもうたことを行って行う。私は，主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである」という言葉が浮かんできました。主のみ言葉を従順に行なう時に道は開かれ，必要なものは示し与えられるのです。私はすべてを主にゆだねました。すると不思議に神殿内で話されていることがよく理解でき，自分のものとすることができました。また死者のバプテスマの時にはこの世を去った多くの兄弟たちのバプテスマを施し，自分自身彼らの力を感じたことをおぼえています。それはまるで死者が身代りの兄弟を通してバプテスマの順番を待っているようでした。この儀式を通して，私は多くの死者の霊の心を知ることができたと思っています。本当に心から感謝致しました。神殿訪問をした聖徒への祝福は何と大いなるものでしょうか。神殿の儀式を行なわなければ死者は救われません。主の予言者が語る言葉に忠実に耳を傾けてそれを行なうならば，すべての聖徒たちは神殿訪問の機会に恵まれ，主の祝福を享受するに違いありません。

神殿訪問で受けたもう1つの祝福は，人の愛でした。主の愛は私にとって偉大なものです。しかし私にとって，私を導き励ましてくれた人々の愛も忘れることはできません。多くのハワイの聖徒たちの奉仕には目を見張るものがありました。ある神殿職員の方は，セッションが朝の7時から計画されていたために，朝4時頃起きてホノルルから車で神殿に来て下さいました。1回4時間のセッションのために自らをよく高め，この業に励んで下さった人々に心より感謝しています。私はハワイ神殿に来て，本当に純粋な人の愛を感じました。お世話になった家庭においてもこの感情は変わりませんでした。よく言われる「モルモンは1つ」という言葉は真実だと思いました。また空港に見送りに来てくれたたくさんの人々が私たちに涙さえ浮かべながら最後まで愛を示して下さったのを見て，やはり神殿に来て良かったという気持を一層強く持つことができました。今度行く時にはきっと愛する人と共に今も永世にもわたる永遠の結び固めの儀式をしたいと思っています。

神殿訪問におけるこれらの祝福を主に心から感謝しています。私は今ステーキ部宣教師に召されております。神殿訪問を通じて得たこの証をもって多くの人々に伝道したいと思います。すべてをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。

大会，大会，大会....

7月中には，3つの地方部大会が開かれました。まず最初に松本で西地方部の中央地区大会が8日と9日に，同じく西地方部の東海地区大会が15日と16日に，そして東地方部大会が高崎の群馬支部で22日と23日に，それぞれ，地方部の役員また支部の会員の良き計画，準備，指導のもとに，ＭＩＡ，一般大会と，とどこおりなく行なわれました。

松本と静岡の一般大会では，プライマリーと日曜学校がテーマとしてとり上げられ，特に，若いうちに福音を学び，身につけることの大切さについて，子供や教師，役員，お母さんたちの強い証を聞きました。

ＭＩＡは，ロードショウで，甲府，松本，長野，浜松，静岡等の支部が，常日頃の練習の成果を披露しました。

熱心に話に聞きいる兄弟姉妹たち（松本支部）

東地方部の一般大会は，神殿訪問をむかえて，系図と神殿をテーマに，系図を探求することの重要性と，実際の体験，神殿の儀式の意義と，それらが救いの計画において占める意味について，多くの指導者の証と話を聞きました。東地方部のＭＩＡはスポーツで，3ブロックで予選を勝ち抜いた選抜の支部の間で優勝戦が行なわれ，次のような結果になりました。

雨の中，熱戦をくりかえすバスケットボール

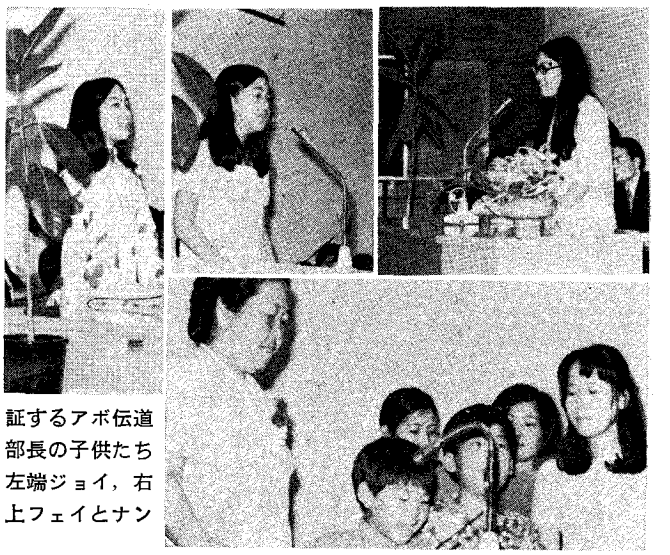
種目		優勝チーム	ブロック
バレーボール	男子	日立	常盤（日立，いわき，水戸）
	女子	群馬	両毛（宇都宮，桐生，足利，群馬，前橋）
バスケットボール	男子	新潟	新潟（長岡，三条，新潟）
	女子	新潟	〃
卓球総合		宇都宮	両毛

なお，このスポーツ大会を通して約10名の新しい会員が生まれました。これからのそれぞれの支部における活躍を祈ります。

この3つの大会において，私たちは初めてアボ家の子供たちの話とコーラスを聞く機会がありました。上の女の子3人，ナン，ジョイそれにフェイは，両親も顔負けするような流ちょうな日本語で，また下の2人の男の子，ベンとタッドは，やはり日本語でプライマリーの歌を歌ってくれました。大会の参加支部と人数は次の通りです。

西地方部　中央地区：長野，松本，諏訪，甲府　157名
　　東海地区：浜松，静岡，富士，沼津，小田原　170名
東地方部　新潟，三条，長岡，宇都宮，桐生，足利
　　群馬，前橋，日立，いわき，水戸　315名

なお，8月の7日から13日は，支部結成1周年を記念して宇都宮の支部大会が開かれ，偉大な伝道者，予言者，アルマ二世の息子ヒラマンに対する勧告「わが子よ，忘れずに青年の時知恵を得よ。……」（アルマ書37：35〜37）のテーマのもとに，2日間の合宿勉強会も含めて，有意義な1週間を過ごしました。中田支部長は1年前13人で出発した支部が今では聖餐会出席平均30数名，また13人のうち12人が活発に支部で活躍していると報告しました。



証するアボ伝道部長の子供たち左端ジョイ，右上フェイとナン

アボ姉妹と一緒に元気に歌を発表するタッド（手前）ベン（後）

涙ながらに証する清水伝道部長

日本中央伝道部

モルモンらしさを熱心に説く清水姉妹

7月地方部大会ハイライト

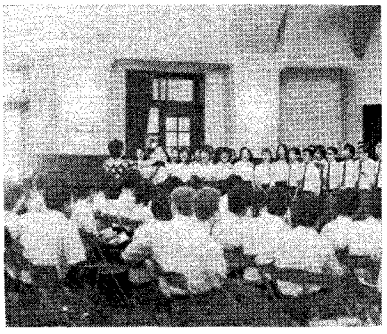
北陸，大阪，中部，中国四国の順で開かれたこの地方部大会で，私たちは各地方部の急速な発展を目のあたりにすることができた。北陸地方部大会では補助組織の会長が召され，月例の合同支部長会も計画されている。一方大阪地方部大会では約800名の大会参加者があり，地方部の組織も完備し，ステーキ部への足がかりをつかんだようである。特に土曜日の夜は地方部長会と各支部長との合宿が行なわれ，ステーキ部への発展を目前にして会員1人1人の問題から将来起こり得るさまざまな問題まで話し合われた。各支部会員の一層の活躍と地方部役員の指導力の向上は急務である。また中部地方部大会では，この地方部大会においてはめずらしい12名ものメルケゼデク神権者が誕生した。支部長会，地方部長会の指導によるものと思われる。

なお10月大会は新築の名古屋支部礼拝堂において開催される予定である。

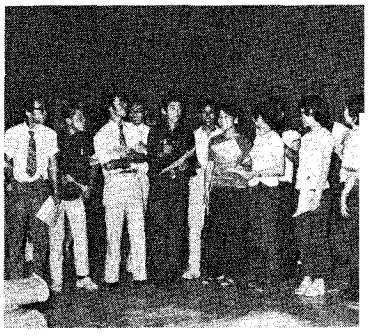
中国東地方部と四国地方部組織さる

この7月大会の最大のハイライトは旧中国四国地方部の発展であった。1月に組織されたこの地方部は，6カ月のうちに中国東地方部と四国地方部に発展的に分割。再組織されたこの地方部の発展は大会の雰囲気で証明された。土曜日のMIA大会では食事も用意され，会場内は超満員で冷房も効果のないほど熱気にあふれていた。夜は150名にも余る会員が栗林ユースホステルにあふれ，寝る場所のない神権者も出たほどである。日曜日は朝5時30分に起床，7時より指導者会がもたれた。11時からの一般大会では会場は300名近い会員で超満員となり，伝道部長から宣教師に席を会員に譲るようにとの指示があり，宣教師は喜んでこの命に従っていた。

ここで伝道部長会より中国四国地方部を中国東地方部と四国地方部に再組織するとの提案があり，会員はざわめきのうちに全員一致でこれをを支持し，四国地方部長に内山雅亘兄弟，中国東地方部長に新谷国昭兄弟が召された。近い将来，山陽新幹線の主要駅沿いに，また中国地方の主要都市ならびに四国地方の都市に支部設置の予定があり，日本政府に先がけて日本列島の霊的大改造が行なわれようとしている。歴史の大きな流れの中で主のみ手は広がりつつある。

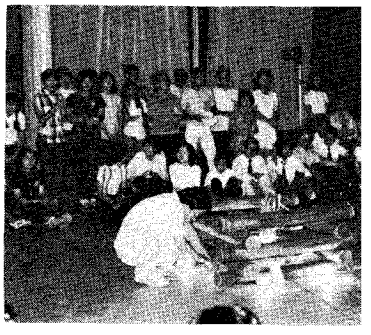


名古屋支部コーラス



青春コーラス（中国四国地方部）

地方部補助組織会長召される



擬似ファイヤをかこんで

北陸の会員たち

あわおどり？

会場埋めつくした会員（大阪地方部）

神権会に集まった会員（大阪地方部）

改　宗　と　証

長崎支部　田　崎　　徹

生前家族と一緒に，賢ちゃん（右下）

「ジンキー長老はどこ？亀井長老は？」これは私共の長男，賢が手術室へ運ばれて行く時言った最後の言葉です。賢は生まれた時から先天性の心臓病，ファロー氏四徴症という病気でした。今年３月23日夕食後に発作に襲われ，右半身が麻痺し，右手右足，右顔面が利かなくなり，言葉も不自由になりました。自宅にレッスンに見えておられた上記の宣教師は毎日のように遠い病院にお見舞いに来て下さいました。時間がない時でも，無理して５分間だけでもと子供を励ましに来て下さいました。お二人の親切な慈愛にあふれる訪問に子供はいつも明るく，重い病気にもかかわらず毎日を楽しく過ごしていました。そしてベッドのかたわらでは私共両親がレッスンを受ける日が続きました。その間子供は高熱が出て病状は一向によくならず，なかなか手術を受けられる状態になりませんでした。

ある日，長老たちが灌油の儀式を施して下さるとの話がありました。私はその効果には半信半疑でした。ところがこの儀式の直後，それまで40度近くあった熱が嘘のように平熱に下がりました。しかし，それでも私は，これはたまたま熱が下がる時が来た時に灌油の儀式が偶然重なったまでのことだと思いました。

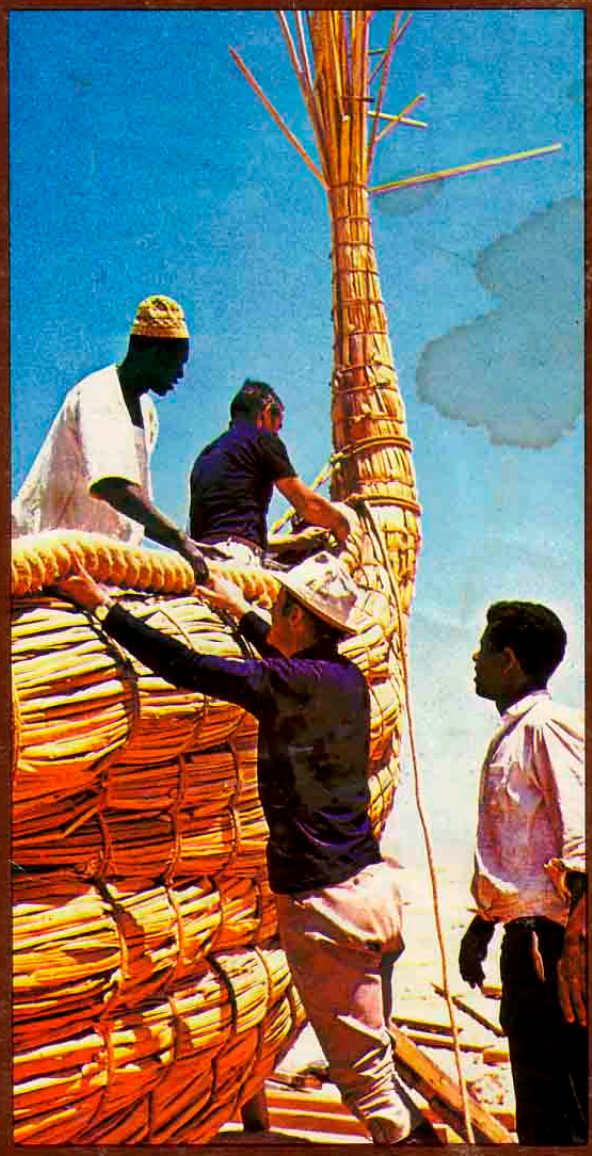
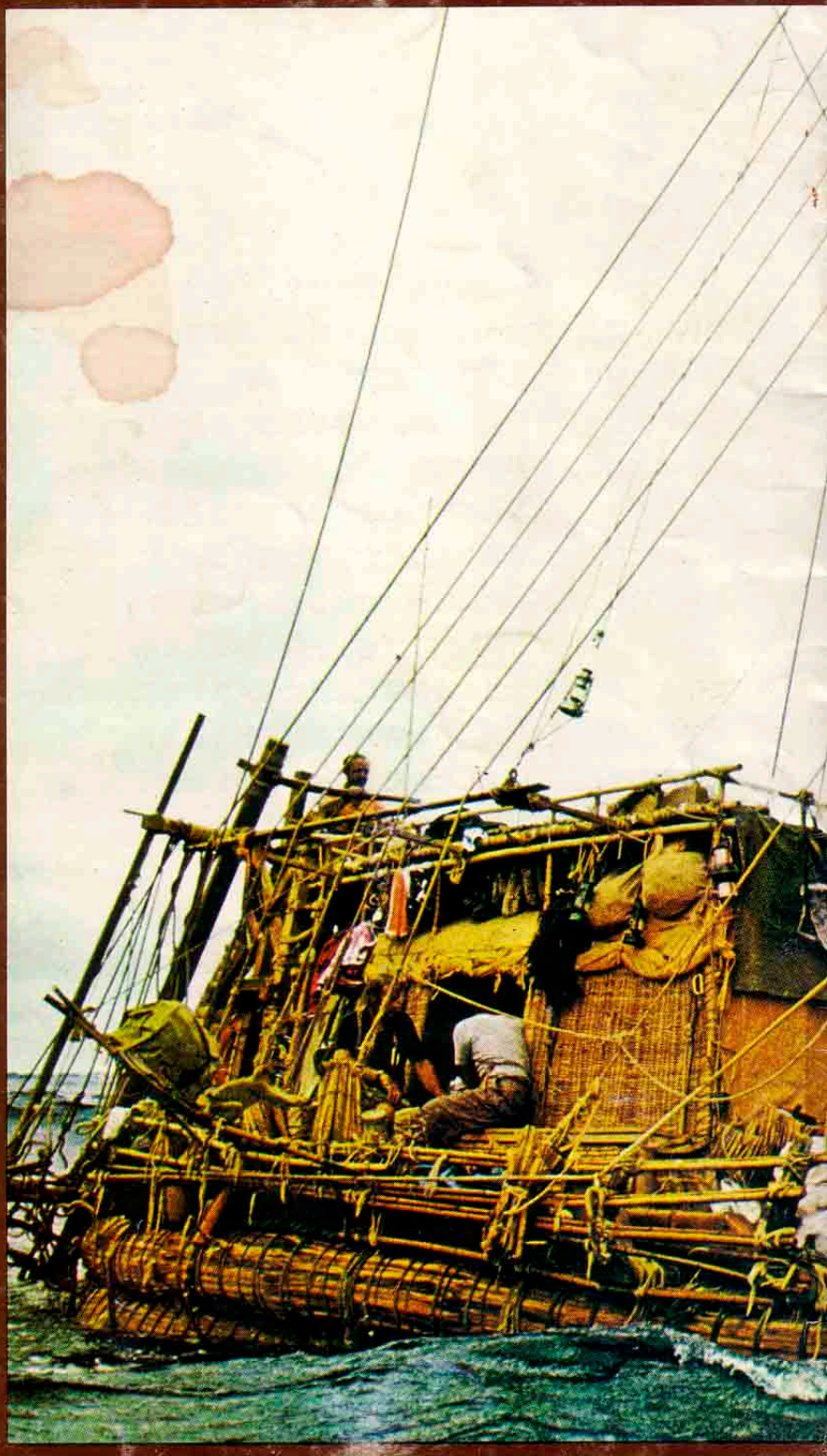
数日後，また熱が高くなりました。病院ではいろいろな薬を使って熱を下げるよう努力がなされましたが効果がありません。そこで再度，２人の宣教師がオリーブ油によって癒しの儀式を行ないました。すると，確かに熱が下がりました。私の考えは変わりました。そこに何かがあると解りました。私共は前よりも身を入れてレッスンを受けるようになりました。妻も一生懸命に勉強し，やがて５月14日長崎支部でバプテスマを受けることができました。

賢は手術の翌朝，私共両親の願いも空しくこの世を去りました。４才９か月でした。３カ月間の入院中，多くの兄弟姉妹より励ましの訪問を受けて，本人は一度もさびしい思いを味わいませんでした。皆様のご厚意と強い信仰に私たち夫婦は強く心を打たれました。

ちりはもとのように土に帰り
霊はこれを授けた神に帰る。
（伝道の書12：7）

愛する子供との死による別れは，肉の苦しみとしては耐え難いものがありますが，彼が今や命を授けたもうた天父のみもとにあることを思えば，この世において心配すべきは，世を去った子のことより，むしろこれから幾多の試しと忍耐を要する人生を送る私たち残された者の方であって，罪なく清く日の栄の王国にある子に再び会えるよう努力を続ける必要のある私の方こそ安心していられない問題があるのです。

私はこの経験を通して，神が生きておられ，この教会が真実の教会であることを証することができます。賢は，私たち両親を導いてくれた偉大な宣教師だったのです。

聖徒の道

昭和42年12月18日第三種郵便物認可
1972年9月20日発行（毎月1回20日発行）第16巻 第9号